



文部科学省 国立大学改革強化促進補助金

千葉大学大学院看護学研究科附属 専門職連携教育研究センター

令和元年度（2019年度） 事業報告書

令和2（2020）年3月

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
III. センターの取り組みと成果	12
1. 教育	12
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	12
2) 新たな IPE プログラムの開発	14
3) FD の充実	15
2. 実践・社会貢献	16
1) IPE 研究拠点からの発信	16
2) IPW の促進	17
3) 政策提言	20
3. 研究	21
1) IPE 研究の進化	21
4. 組織運営	22
1) 予算と人材の確保	22
2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営	22
3) IPERC の将来構想	22
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	23
1. 令和元年度(2019 年度)外部評価委員会の開催	23
2. 外部評価委員による講評	23
3. 外部評価委員の講評のまとめ	24
1) 教育について	25
2) 実践・社会貢献について	25
3) 研究について	25
4) 組織運営について	25
V. 平成 27～令和元年度 (2015-2019) 5 か年計画の総括と次期 5 か年計画	26
VI. 資料	31
(資料 1) 亥鼻 IPE 数値実績	31
(資料 2) 令和元年度亥鼻 IPE 学習のまとめ (別冊)	32
(資料 3) 令和元年度 試行事業報告 クリニカル IPE (別冊)	32
(資料 4) 地域貢献事業実績	33
(資料 5) 研究業績	38

I. ごあいさつ

千葉大学看護学研究科附属専門職連携教育研究センターは、今年度 5 年目が終了し、2015 年 1 月開設時に立案した、IPERC の理念、ビジョン、ミッションの最終評価を行いました。

この 5 年間、全力疾走で IPERC の活動を推進してきましたが、2019 年度で活動の節目を迎えることとなりました。この 5 年間のあいだ、IPERC を支えてくださった、大学本部、医学部、看護学部、薬学部の学部長および教職員のみなさま、医学部附属病院の教職員のみなさま、ともに亥鼻 IPE を運営してくださったみなさまに深く感謝申し上げます。また千葉県内外で実習を引き受けてくださり、いつも貴重な体験と学生へのフィードバックをくださるクリニック、薬局、病院、介護施設、訪問看護ステーション、事業所、作業所のみなさまのおかげをもって学生の学びが保障されていると認識しております。深く感謝申し上げます。また毎年外部委員の先生方から貴重なアドバイスをいただくことにより私たちの活動は充実していきました。そして FD の講師の皆様のおかげで IPE および IPW の質が明らかに向上していると思います。本当にありがとうございます。

IPERC という亥鼻キャンパスの 3 学部の拠点ができただけで、亥鼻 IPE は洗練され、社会貢献事業が立ち上がり、研究活動の基盤整備をすることができました。まさにチームビルディングのタックマンモデルでいうところの、形成期、混乱期を乗り越え、統一期まで差し掛かったところということが出来ます。次の 5 年間で千葉大学と千葉県の専門職連携教育及び実践への貢献を最大化し、患者利用者の健康アウトカムの向上に資するような教育、そしてそのような成果の可視化としての研究、社会貢献活動をしていきたいと存じます。

今年度は、グローバル IPE の本格的始動に向けて、学内の助成をうけ、カウンターパート大学とプログラム開発の道筋をつけようとしていました。2 月以降の新型コロナウイルス感染の世界的拡大により、予定通り実行できなかった調整もありますが、いろいろな国の IPE 交流の基礎を作ったと思います。また、IPE、IPW に関する研修事業の仕組みをつくり多数の専門職に受講していただくことができたことも大きな成果でした。

研究については、論文数、学会発表数ともに増加し、また科学研究費補助金などの応募を活発に行いました。2020 年 4 月 1 日現在、IPERC 教授、准教授、講師の科研費の取得率は 100%となっています。いろいろな部署との共同研究も活発化しております。

このような大きな流れをうけ、2020 年 10 月 3、4 日には、IPERC 運営委員の朝比奈真由美先生が大会長として、亥鼻キャンパスにおいて、日本保健医療福祉連携教育学会学術集会を開催する予定です。新型コロナウイルスの感染の収束が不透明な状況ではありますが、このような誰も経験したことのない状況でこそ、ひとりひとりの専門職連携実践の力を発揮し力を合わせて目標を達成していければと思います。皆様のご健康を心より祈念いたします。

2020 年 3 月 31 日
センター長 酒井 郁子

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 (2015) 年 1 月からセンター長及び特任教員で作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 (2015) 年 2 月 23 日、平成 27 年度(2015 年度)第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（1）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（2）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

（3）研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（4）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

2. 組織

当センターは、看護学研究科の研究・教育施設として位置づけられている。センター教員は、特任教員と3学部から兼務教員である。下記に組織図および各会の名簿を示した。

センター教員は「教育実践研究部会」を年2回開催し、研究、教育・実践、および研修活動として、下記の活動を行っている。

研究として

- ・ IPE の評価研究、理論化、データ蓄積
- ・ IPW の理論化、実証研究、橋渡し研究
- ・ IPE (学部・大学院) 及び IPW プログラムの開発・普及
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

教育・実践として

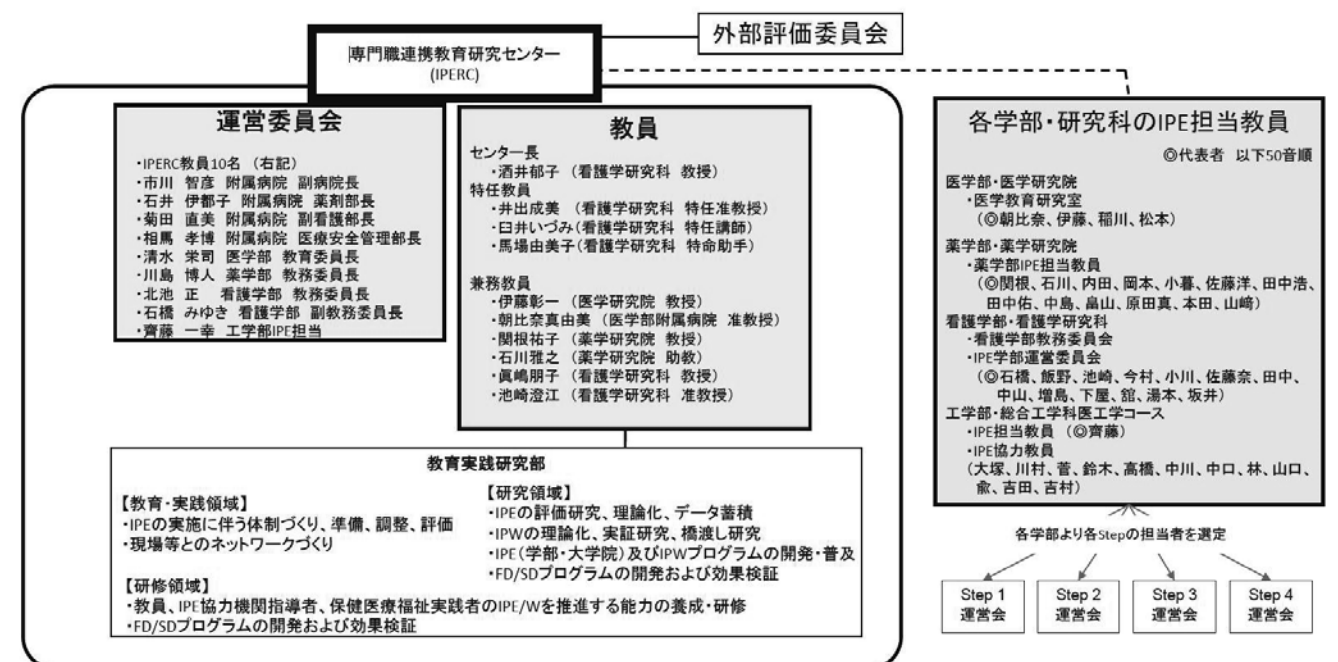
- ・ 3学部等のメンバーによる IPE の実施に伴う準備・調整・体制づくり・評価
- ・ 現場等とのネットワークづくり

研修として

- ・ 教員、IPE 協力機関指導者、保健医療福祉実践者の IPE/W を促進する能力の養成・研修
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

また、「教育実践研究部会」は、センター教員が部会員であり、3学部と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。センターの運営については、センター長、センター教員の他、3学部の教務委員長および附属病院に委員を依頼し、定期開催している。また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。センターの事務所管は、看護学部事務部センター事業支援係が担当することとなった。亥鼻 IPE は、看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携して行っている。

IPERCと亥鼻IPEの組織図 2019.4～



令和元 年度(2019 年度)センター職員名簿

センター長

- ・酒井 郁子（看護学研究科 教授）

特任教員

- ・井出 成美（看護学研究科 特任准教授）
- ・臼井いづみ（看護学研究科 特任講師）
- ・馬場由美子（看護学研究科 特命助手）

兼務教員 50 音順

- ・朝比奈真由美（医学部附属病院 特任教授）
- ・池崎 澄江（看護学研究科 准教授）
- ・石川 雅之（薬学研究院 助教）
- ・伊藤 彰一（医学研究院 教授）
- ・関根 祐子（薬学研究院 教授）
- ・眞嶋 朋子（看護学研究科 教授）

事務補佐員

- ・富永嘉子 ・長谷川容佳

令和元年度センター運営委員名簿 50 音順

- ・石井伊都子（附属病院 薬剤部長）
- ・石橋 みゆき（看護学部 副教務委員長）
- ・市川 智彦（附属病院 副病院長）
- ・川島 博人（薬学部 教務委員長）
- ・菊田 直美（附属病院 副看護部長）
- ・北池 正（看護学部 教務委員長）
- ・齊藤 一幸（フロンティア医工学センター IPE 担当）
- ・清水 栄司（医学部 教務委員長）
- ・相馬 孝博（附属病院 医療安全管理部長）
- ・上記 センター特任教員・兼務教員

令和元 年度センター外部評価委員名簿 50 音順

- ・新井 利民（埼玉県立社会福祉こども学科 准教授）
- ・井手 正明（千葉大学医学部 SP（模擬患者）会）
- ・川島 啓二（京都産業大学共通教育推進機構 教授）
- ・福田 浩子（千葉県健康福祉部健康づくり支援課）
- ・渡邊 秀臣（群馬大学大学院保健学研究科 教授）

3. 専門職連携教育研究センター規程

センターの規定は、平成 26 (2014)年 10 月に千葉大学理事会で決定した。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、専門職連携教育及び連携実践を発展・進化させるための基盤体制を組織的に位置付け、我が国及びアジア圏の専門職連携教育実践の研究、教育の推進拠点として機能することを目的とする。

(組織)

第 3 条 センターに、次の研究部を置く。

一 教育実践研究部

二 その他、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）が必要と認めた研究部

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

一 センター長

二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教

三 その他の職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、看護学研究科長が指名する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

(運営委員会)

第 6 条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。

第 7 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 センターの運営に関する事項

二 その他運営委員会が必要と認めた事項

第 8 条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 センター長

二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長

三 その他センター長が必要と認めた者

第 9 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

第 10 条 運営委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところに

よる。

第11条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第12条 センターにおいて外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、看護学部事務部において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、看護学研究科教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規程は、平成27年1月1日から施行する。

2 最初に指名されるセンター長の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

4. 令和元年度(2019年度)事業計画

●長期目標(平成27年ー平成31年 2015-2019)

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、効果的な「亥鼻 IPE」(Step1～Step5)の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施できる体制を構築する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

国内の他大学や海外との IPE に関わる交流を図り、多様な I P E プログラムを開発し蓄積する。

(3) F D の充実

「亥鼻 IPE」を担うファシリテーター(以下、FT)養成の研修プログラムを開発して FT 研修(FD)を行い、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を担う人材育成や国内外の IPE 実践者へのコンサルテーションを広く展開するよう、開発・検証した IPE プログラムや研修プログラムを発信し、実施できるシステムを構築する。

(2) IPW の促進

大学病院や地域における IPW コーディネーターの人材育成(現任者対象の IPE)に関する研修プログラムを確立し、研修を実施するための制度化を行う。あわせて、IPW を促進するための組織改善に関する管理者等の研修プログラムの開発と研修の実施及び IPW のコンサルテーション等を行うためのシステムも構築する。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

各研究プロジェクト・チームの成果を集積し、IPE/IPW の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、多様な分野に応用できる汎用性のある IPE/IPW の研究方法論を開発、提唱する。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

IPERC は玄鼻高機能化事業として予算化されているので、新たな事業費や研究助成金の確保を追求し、発展的な事業展開ができるようにする。また、センターのリソースパーソンの確保と活用ができるよう組織拡大を図る。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

(3) IPERC の将来構想

IPE/IPW の研究拠点として「大学院専門職連携学研究科（仮）」の設置に向けて検討する。

●後期中期目標(平成 30 年度－令和元年度 2018-2019)

1) 教育

(1) 玄鼻 IPE の発展・進化

①3 学部のカリキュラム改正等に対応した玄鼻 IPE の改定を行い、安定的に実施し、教材を順次更新、開発する。

②医学 5 年生・薬学 5 年生、看護学部 4 年生に臨床 IPE を実施する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

①海外との交流による多様な IPE プログラムを開発する。

②千葉県内の大学間連携による IPE プログラムを開発する。

③大学院における IPE プログラムを開発する。

④厚労省及び文科省、他大学との連携による IPE の開発を行う。

(3) FD の充実

①「玄鼻 IPE」の FT 養成プログラムに関する実証的な検証を行い、プログラムの改善を図る。

②玄鼻 FD プロジェクトの拡大と安定的運営を図る。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

①健康関連専門職養成所における IPE カリキュラムの開発と運営に関して、IPERC が蓄積したカリキュラムマネジメントおよび FD の知見を広く周知する。

②海外の健康関連専門職養成を行っている大学と連携し、国際的に互換性の高い IPE プログラムの開発およびカリキュラムマネジメントに関するコンサルテーションを実施する。

(2) IPW の促進

①大学病院の IPW 改善に貢献する。

②千葉県（千葉市）及び全国の地域連携事業に協力し、医療と介護の連携および地域包括ケアシステム構築に貢献する。

(3) 政策提言

厚労省、文科省と連携し、指定規則の改定およびコアカリキュラムへの IPE 必修化に向けた提言を行う。

3) 研究

IPE 及び IPW の理論化および IPE 成果検証研究を実施し公表する。

4) 組織運営

(1) 事業の安定的な運営及び発展を目指した予算確保

- ①新たな外部資金の確保
- ②亥鼻キャンパス内での予算枠組みの再構築を行い事業運営の安定化を図る。

(2) PDCA サイクルに基づいた運営

- ①年間事業計画の策定と実施、評価
- ②各種運営マニュアルの修正

(3) IPERC 将来構想の具現化

- ①IPERC を含む総合教育棟の概算要求
- ②IPE に関する大学院の設置に向けた検討

●令和元年度(2019 年度) 年間目標

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の安定的発展

- ①看護学部のカリキュラム改正に伴い、ステップ 4 の開講時期の変更がなされるため、3 年生(新カリ)と 4 年生(旧カリ)の 2 学年にステップ 4 を効果的効率的に実施する。
- ②全学 Moodle を円滑に活用し、e-learning を取り入れ学生のアクティブな学習を助ける工夫をする。
- ④授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「亥鼻 IPE」プログラムを検討する。
- ⑤医学部 5 年生、薬学 5 年生、看護学部 4 年生(旧カリ)への CIPE の試行を、大学病院で実施する。
- ⑥看護学部は 2021 年度にカリキュラム改訂に合わせて、CIPE の必修化の道筋を明確にする。(ワーキングチームを設け検討を行う。)

(2) 海外との交流による多様な IPE プログラムの開発

- ①レスター大学への学生短期留学および亥鼻 IPE との単位互換を計画する。
- ②トロント大学・香港大学への IPE 学生短期留学の可能性および単位互換の可能性を探索する。
- ③グリフィス大学との交流を継続し、共同研究、短期留学の可能性を探索する。

(3) 千葉県内の大学間連携による IPE プログラムの開発

- ①新たな千葉県内大学および各種専門学校での IPE 開発に協力する。

(4) 大学院における IPE プログラムの開発

- ①IPE を取り入れた災害看護学の大学院教育の効果を評価し、社会実装の可能性を探索する。
- ②看護学研究科大学院カリキュラム改正に合わせて、副専攻としての専門職連携学専攻を設置する方向で検討していく。

(5) 厚労省及び文科省との連携による標準 IPE プログラムの開発

- ①看護師等養成所における IPE プログラム開発を IPE 研修などを通じて実施する。
- ②全国の健康関連専門職共通科目としての IPE カリキュラムの構築を厚労省、文科省、他大学 IPE リーディング大学と連携して実施する。

(6) FD の充実

- ①Step 1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施する。そのための教材開発を行う。
- ②亥鼻 FD プロジェクトを亥鼻キャンパスに組織的に位置づける。そのための合意形成を行う。

2) 実践・社会貢献

(1) 健康関連専門職養成所における IPE カリキュラムマネジメントの研修

- ① IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を実施する。
- ② 看護協会などの主催の看護教員養成プログラムに協力し、看護教員や教員志望者の IPE に関する知識向上やプログラム開発能力向上に貢献する

(2) 海外の健康関連専門職系大学との連携により国際的に互換性の高い IPE プログラムの開発及びカリキュラムマネジメントのコンサルテーション

- ① IPE カリキュラム開発に関心の高い主にアジア圏の大学へのコンサルテーションを実施する。

(3) 千葉大学病院の IPW への貢献

- ① 大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。
- ② 大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。

(4) 千葉県内及び全国の地域連携事業への協力を通して地域包括ケアシステム構築への貢献

- ① 千葉県及び全国の健康関連専門職を対象とした現任教育 IPE プログラムを提供する。
- ② IPW マネジメント研修、IPW ベーシック研修を体系立て実施する。
- ③ 地域包括ケアシステムにおける連携協働の仕組みづくりへのコンサルテーションを実施する。

(5) 厚労省、文科省との連携による IPE 必修化への提言

- ① 厚労省看護基礎教育検討会(仮) 構成員にセンター長として入り、平成 32 年の改正省令施行、平成 34 年の改正省令を適用した教育の開始に向けた提言を行う。
- ② 健康関連専門職基礎教育課程における共通科目の設定について、厚労省、文科省に意見を提出する。

3) 研究

- ① 医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート
- ② IPE 成果研究の発信
- ③ IPE 実装の方法論の開発
- ④ IPW, IPE の理論化

4) 組織運営

(1) 予算確保

- ① 研修事業による自己収入を図る
- ② 亥鼻キャンパス内での予算枠組みの安定をはかり事業運営の安定化を図る

(2) 運営

- ① 年間事業計画の策定と実施、評価
- ② 各種運営マニュアルの修正

(3) IPERC 将来構想の具現化

- ① IPERC を含む総合教育棟の概算要求
- ② IPE に関する大学院の設置に向けた検討
- ③ 運営委員会の開催
- ④ 教育実践研究部会の開催

Ⅲ. センターの取り組みと成果

「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」の4つの柱に沿って長期目標・中期目標を見出しとして、令和元年度(2019年度)の取り組みと成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の Step1・2・3・4 は、3 学部で運営責任学部を分担し 3 学部の教員とセンター教員が協力して運営を行っている。

亥鼻 IPE の目的は、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人の育成」である。

亥鼻 IPE の学習到達目標は、以下の表のとおりである。貢献力・調整力に大別された専門職連携実践能力を段階的な学習プログラムの中で身につけることが目標となっている。

表 専門職連携実践能力と Step ごとの学習到達目標

	Step1	Step2	Step3	Step4
専門職連携実践能力	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者及び他学部の学生とコミュニケーションできる能力。Step1の終了時、学生は以下のことができる。	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力。Step2の終了時、学生は以下のことができる。	患者、サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力。Step3の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力。Step4の終了時、学生は以下のことができる。
I. チームの目標達成のための行動	チームの取り組みと成果を説明できる	チームの目標達成に向け、自分の行動を調整できる	チームの目標達成のためにチーム内の対立を解決できる	チームの目標達成のために、チーム状況の評価し、自己の実践を決定できる
II. チーム運営のスキル	チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる	チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる	対立及び対立の解決について説明でき、チームで生じている対立に気づくことができる	チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる
III. チームの凝集性を高める態度	チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる	他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる	患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について、チームメンバーと率直に話し合うことができる	チームメンバー及びかかわる多様な専門職と、良好な人間関係のもと、話しやすい雰囲気をつくることことができる
IV. 患者を尊重した治療・ケアの提供	患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる	医療福祉サービス及び行われているケアを患者・サービス利用者の自律及び自立の観点から説明できる	複数の問題解決案の中から、患者・サービス利用者らの意思を尊重した最も良い方法を、チームとして選択できる	患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画をチームとして立案できる
V. プロフェッショナルとしての態度・信念	専門職として成長するために何が必要かを考えることができる	実際に行われている治療ケアの根拠と理由を(説明を受けて)理解できる	学生の立場から専門職としてあてべき姿を考えることができる	専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識を退院計画に反映できる
VI. 専門職としての役割遂行	チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる	医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる	学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいてチームメンバーに意見を述べるができる	自職種の専門的知識や技術をを用いてできることの範囲及び課題を学生の立場から説明できる

以下、令和元年度(2019 年度)の実績を述べる。Step1・2・3・4 の科目内容及び実績の詳細は別冊として「学習のまとめ」に記載する。また学生数等の実績については(資料1)に掲載した。

(1) 亥鼻 IPE の安定的発展

①看護学部のカリキュラム改正に伴い、ステップ4の開講時期の変更がなされるため、3年生(新カリ)と4年生(旧カリ)の2学年にステップ4を効果的効率的に実施する。

医学部生118名、看護学部生160名(3年生79名、4年生81名)、薬学部生48名、城西国際大学薬学部生3名、合計329名を前半と後半に分け、1グループ6~7人の24グループずつで実施した。例年より6グループずつ増えたことにより、学習成果発表会の時間が30分延長するため、発表会会場を附属病院のガーネットホール、セミナー室、CCSCのスキルトレーニング室の3か所に分散させた。グループ数増加により、学生が立てた退院計画を点検する教員数を前半、後半それぞれ1名ずつ増員し、4名体制を取った。グループワークのためにミーティングテーブルとパイプ椅子をレンタルし

た。少し小さめのミーティングテーブルにより、話し合いから離れている学生がおらず、グループの凝集性が高まり、話し合いを活性化する効果があった。来年度は人数が通常に戻るが、学習効果を考え、引き続きミーティングテーブルのレンタル、発表会会場の分散を実施したいと考えている。

②全学 Moodle を円滑に活用し、e-learning を取り入れ学生のアクティブな学習を助ける工夫をする。

昨年度同様、Step2 では、Moodle を使い事前学習課題として地域包括ケアに関する基礎知識についての教材を使用した。資料を最新にするとともに、本年度用に微修正を加えた。また、反転授業の講義で使用する確認用の問題を修正し、よりグループで参加できるように講義運営の方法を工夫した。

Step3 でも講義の一部を動画教材として Moodle 上にアップし、動画を視聴後に確認テストを受験して知識の定着を図るよう工夫した。満点になるまで何回も受験するようアナウンスしたところ、受講生 259 人中 93 人が 1～6 回受験で満点に到達していた。23 人は 1 度も受験していなかった。ほとんどの学生が事前課題に取り組み、その後のグループワークでも学んだコンセプトを使って分析を行うなど、知識の活用が見られた。来年度も継続して実施していく予定である。

③授業評価アンケートや教員アンケートをもとに、これまでの教育プログラムの課題を集約し、次年度の「玄鼻 IPE」プログラムを検討する。

授業評価アンケートでは、Step1 と Step4 はどの学部も昨年度より満足度が上がった。Step2 では看護学部は昨年度より満足度が上がったが他の学部は下がった。Step3 はほぼ横ばいであった。集団特性による影響もあると考えられるが、自由記述の内容を分析し、今後改善に努める。

ステップ1での医工学学生への対応、ステップ2・ステップ3での反転授業やe-learningについての評価、ステップ4での受講学年変更、新しい症例の追加の評価などを行いながら、改善を継続する。

（２）クリニカル IPE（試行事業）の実施

2015 年度から、Step5 としての試行事業として実施してきた。本試行事業の目的は、玄鼻 IPE の最終段階として、看護学部は4年生の統合実習の一部として、医学部と薬学部は5年生のクリニカル・クラークシップの一部として、3学部混成チームによるクリニカル IPE を実施し、臨床の場で実践可能な専門職連携実践力を育成することである。本年度の実施状況を以下にまとめた。

①医学部5年生、薬学5年生、看護学部4年生(旧カリ)へのCIPEの試行を、大学病院で実施する。

7月に附属病院10診療科9病棟にて、臨床参加型IPE(CIPE)を実施した。14グループ45名(医学部5年生14名、看護学部4年生14名、薬学部5年生17名、薬学部17名の内3名は他大学)が参加した。10診療科9病棟で、医師15名、看護師13名、薬剤師13名が指導に協力した。実習準備として、実習指導を担当する専門職(医師、看護師、薬剤)との事前打合せを各診療科を含め病棟毎に行った。事前打合わせで共有した今年度作成の「クリニカル実習指導担当者マニュアル」によって、新たに加わった実習指導担当者へ具体的な周知および受け入れ準備と指導の方向性の共有が容易となった。また、学生が立案する退院計画をより個別性を意識したものにするため、今年度はコンサルテーションを必須とした。以上から、学生は具体的に方向性をもってグループワークに取り組み、学生グループを職種にかかわらず指導する状況が漸増し、対象理解の深まりと優先順位を意識した退院計画立案に繋がった。

事業開始から4年が経過し、附属病院においては、特定の診療科および病棟においてCIPEは定着した。今後は、実習領域の拡大の可能性を探るなど関係者との話し合いを含め必修化に向けた検討を継続して行う。

②看護学部は令和3年度（2021年度）にカリキュラム改訂に合わせて、CIPEの必修化の道筋を明確にする。（ワーキングチームを設け検討を行う。）

本年度は、ワーキングチームでの話し合いの機会を取れず、運営委員会で意見を聴取するにとどまった。病院での臨床実習の場だけではなく、地域の健康づくりや健康教育などの場でのIPEも視野に入れて考えてもよいのではという意見が出ている。いずれにしてもCIPEの目的と達成目標を明確にし、実現可能性を考慮した上で必修化への道筋を明らかにしていく必要がある。

2) 新たなIPEプログラムの開発

（1）海外との交流による多様なIPEプログラムの開発

千葉大学は令和2年度（2020年度）から全員留学を目標に掲げ、学部学生のうちから海外で主体的な学習を行うための環境整備を行っている。

IPERCでは、このような機会を活用し、千葉大学の医療系学部学生が、世界の各大学で展開されている先進的なIPEを受講できるようなプログラム開発に着手した。

「将来の保健医療人材」が、専門職連携の即戦力として保健医療に携わることにより、その国の保健医療システムの最適化をめざすことがIPEの大きな目的である。亥鼻IPEを受講した学生が、千葉大学チームとして海外の他大学IPEに参加することにより、世界に通用する連携実践能力と、自分たちチームの連携実践能力の相対化と学習の進化が得られると考えたからである。

また、亥鼻IPEプログラムに海外の学生を受け入れることが可能となっているのは、必修型IPEを立ち上げ改善してきた経験があること、海外発信力が強化されてきたことが要因となっている。

①レスター大学への学生短期留学および亥鼻IPEとの単位互換を計画する。

グローバルIPEとして医学部、看護学部、薬学部の学生を英国レスター大学に送るため、交渉を行った。本年度は医学部生が令和2年（2020年）3月18日から6週間、看護学部生が2月上旬から2週間留学した。レスター大学のIPEプログラムは5月～6月にかけて開催期間予定であるので、令和3年（2021年）度以降、看護学部生は2週間、医学部生は6週間、派遣できるよう調整している。

②トロント大学・香港大学へのIPE学生短期留学の可能性および単位互換の可能性を探索する。

千葉大学ENGINEの予算を得て、トロント大学、オタワ大学のIPEプログラムの視察に、医学部、看護学部、薬学部、IPERCの教員が令和2年（2020年）3月5日～11日の日程で訪問する予定であったが新型コロナウイルス感染症対応のため渡航は中止となり、今後スカイプ等を使用して交渉を予定している。

また同予算で、オーストラリアのモナシュ大学、グリフィス大学IPEプログラムの視察に、医学部、看護学部、薬学部、IPERCの教員が令和2年（2020年）2月1日～8日の日程で訪問した。モナシュ大学とは2020年8月ごろにトライアルとして3学部の学生を派遣し、2021年1月にモナシュ大学の学生を受け入れる方向で今後調整をしていくことが合意された。また、グリフィス大学でも、医学部、薬学部では、交換留学に向けて具体的に交渉していくことが合意され、看護学部についても、今後交換留学が実現できるように関係を継続していくことを合意した。

香港大学看護学部の学生3名が亥鼻IPEステップ3に参加した。香港大学への看護学部生の留学も検討されたが、香港の政治情勢等を鑑み、本年度は学生の派遣を取りやめ、学生募集を行わなかった。

（2）千葉県内の大学間連携によるIPEプログラムの開発

①新たな千葉県内大学および各種専門学校でのIPE開発に協力する。

IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修を開催し、県内の大学や専門学校の教員の参加を呼び掛けた。本年度は、県内の教員の参加はなかった。（詳細は、実践・社会貢献の項）

（３）大学院における IPE プログラムの開発

①IPE を取り入れた災害看護学の大学院教育の効果を評価し、社会実装の可能性を探索する。

令和 2 年(2020 年) 3 月 2 日（月）～4 日（水）の日程で災害時専門職連携演習を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対応のため令和 3 年(2021)3 月 1 日～3 日に延期となった。効果評価も実施する。

②看護学研究科大学院カリキュラム改正に合わせて、副専攻としての専門職連携学専攻を設置する方向で検討していく。

看護学研究科の 2 次再編に向けて、専門職連携関係の科目を再構築し、「継続教育方法論」「専門職連携実践論」「災害時専門職連携演習」として、提供する体制を整えた。今後他分野の大学院生にも受講可能にできるよう検討していく。

（４）厚労省及び文科省との連携による標準 IPE プログラムの開発

①看護師等養成所における IPE プログラム開発を IPE 研修などを通じて実施する。

平成 29 年（2017 年）に酒井センター長が看護職員確保対策特別事業（厚生労働省）研究の補助を受けて実施した調査研究の結果から、「IPE 実装ガイドライン」を開発した。これを踏まえ、日本看護学校協議会から「専門職連携教育ガイドライン」が出された。

IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修を開催し、IPE を実装しようとしている大学や専門学校の IPE プログラム開発に協力した。（詳細は実践・社会貢献の項で後述）

②全国の健康関連専門職共通科目としての IPE カリキュラムの構築を厚労省、文科省、他大学 IPE リーディング大学と連携して実施する。

酒井センター長が、厚生労働省の看護基礎教育検討会委員として 2022 年度の保助看法の改正省令（保健師助産師看護師養成学校指定規則）を適用した新カリキュラムを念頭にした検討に参画し専門職連携教育の位置づけについて提言を行った。新カリキュラムの看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの臨時実習「看護の統合と実践」に多職種と連携・協働しながら看護を実践する実習を行うことが望ましいことが記載された。

３）FD の充実

（１）亥鼻 IPE のファシリテーター教員対象の FD の改善

①Step 1～4、および CIPE の FT 研修（FD）を実施する。そのための教材開発を行う。

各 Step で担当教員および実習担当者、演習協力社への説明会および FD/SD を行った。

【Step1】6 月 5 日（水）17 名出席（医学部 4 名、看護学部 3 名、薬学部 1 名、工学部 6 名、IPERC3 名）

【Step2】4 月 25 日（木）27 名出席（医学部 5 名、薬学部 1 名、附属病院医師 9 名、外部実習期間実習担当者 9 名、IPERC3 名）

【Step3】12 月 6 日（金）21 名出席（医学部 1 名、看護学部 7 名、薬学部 3 名、附属病院医師 7 名、IPERC3 名）

【Step4】9 月 3 日（火）26 名出席（附属病院 医師 5 名、看護師 1 名、薬剤師 1 名、ソーシャルワーカー 3 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 3 名、公認心理士 1 名、医学部 2 名、看護学部 4 名、薬学部 2 名、IPERC3 名）

（２）亥鼻 FD プロジェクトの拡大と安定的運営

①亥鼻 FD プロジェクトを亥鼻キャンパスに組織的に位置づける。そのための合意形成を行う。

「亥鼻 FD プロジェクト」企画として、3 回の研修を行った。今年度はのべ 35 人の参加者があり、いずれも参加者アンケートでは高い満足度のフィードバックを得ている。

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を推進してきた経験やそこから得られた知見を様々な形で発信し、日本のそして海外諸国の IPE の発展に寄与することを目的として、以下の事業に取り組んだ。

(1) 健康関連専門職養成所における IPE カリキュラムマネジメントの研修

① IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を実施する。

令和元年(2019 年) 8 月 10 日(土)・11 月 23 日(土)の2日間コースで、IPE カリキュラムマネジメント・授業開発研修を実施した。本研修は、医療保健福祉の専門職の養成に携わる教員が、専門職連携教育の実装に向けて必要なカリキュラムマネジメント能力および基礎的な授業開発能力を高めることを目的としている。

下記表のとおり 11 名の受講があった。全員に修了証書を発行した。

所属	領域	都道府県	人数
大学・短期大学	看護	大阪、長野、福井、岐阜	4
	栄養	愛知	1
専門学校	看護	埼玉、広島、三重、宮崎	5
	理学療法	鳥取	1

実施後のアンケートでは、57.1%がとても満足、42.9%が満足と回答し、満足度は高かった。専門職連携教育に関する基本的知識が学べたこと、教育プログラムの設計の基本から学べたこと、インストラクショナルデザインによる授業設計について学べたこと、所属組織の組織分析から所属校の理念に沿った人材育成の重要性や学生の到達目標を明確にする必要性などについて、学習になったとの意見が見られた。一人一人の所属校の特色に合わせたコメントや指導に時間がかかり散逸的な印象となったとの意見があったので、来年度に向け研修プログラムの構成やプロセスについて検討する。

② 看護協会などの主催の看護教員養成プログラムに協力し、看護教員や教員志望者の IPE に関する知識向上やプログラム開発能力向上に貢献する。

静岡県看護協会の依頼で、専任教員養成講習会にて、井出特任准教授が「看護教育方法論（専門職連携教育）」の科目を担当し、看護師養成所専任教員等を対象に講義および演習を行った。

そのほか、様々な保健医療福祉機関から依頼を受け、専門職連携に関する講演や研修に講師として出向いた。島根大学、兵庫医療大学からは、学生向けの IPE プログラムへの講師の派遣依頼、教員・学生への IPE 啓発イベントへの依頼があり、兼務教員の朝比奈特任教授と井出特任准教授が出向いた。

(2) 海外の健康関連専門職系大学との連携により国際的に互換性の高い IPE プログラムの開発及びカリキュラムマネジメントのコンサルテーション

① IPE カリキュラム開発に関心の高い主にアジア圏の大学へのコンサルテーションを実施する。

韓国の仁済大学(Inje University)の医学・薬学・看護学・教育学の Faculty の亥鼻 IPE への見学とコンサルテーションを受け入れた。当該大学では、来年度から IPE を開始する予定である。今後、学生の交換留学の可能性を検討していく予定である。また、タイのコンケン大学、香港の香港大学の看護学生が、亥鼻 IPE に部分的に参加し、IPE への関心を高める機会となった。

群馬大学 WHO 協力センター：多職種連携教育研究研修センター主催の「IPE Training Course 2019」にて、酒井センター長がゲストスピーカーとして講演した。参加者は、インドネシア、フィリピン、タイなどからであった。

2) IPW の促進

(1) 千葉大学病院の IPW への貢献

①大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。

兼務教員の朝比奈特任教授、眞嶋朋子教授により実施した。

②大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。

兼務教員の伊藤彰一教授が専門職連携のための FD 実装のための基盤研究とプログラム開発に関する研究費を獲得し、進めている。

(2) 千葉県内及び全国の地域連携事業への協力を通して地域包括ケアシステム構築への貢献

①千葉県及び全国の健康関連専門職を対象とした現任教育 IPE プログラムを提供する。

A 医療保健福祉の多様な機関における研修への講師派遣

県内、全国の各種医療保健福祉機関からの要請により、実践者を対象とした専門職連携実践能力向上のための研修を現地に出向いて実施した。本年度は、千葉県、大分県、東京都の合計 4 機関から依頼を受けた。

B 各種学会等における知識や情報の発信

酒井センター長は、京都府看護協会主催の「京都府看護学会」にて特別講演「看護職に必要な専門職連携教育-医療者としてお互いにお互いからお互いについて学ぶために-」を行った。さらに本学会では、シンポジウム「専門職連携教育 (IPE) がもたらす現場の変化」が開かれ、本学 IPE 受講経験のある現在、医師、看護師、薬剤師として活躍中の卒業生がシンポジストとして参画し、IPE の経験と現在の職務への影響について話題提供した。医療現場で、他職種へのリスペクトをもって、患者中心の医療のためにまさに IPW を自然に遂行している様子が語られた。参会者からの質問も多く出され、活発な議論があり関心の高さがうかがえた。

②IPW マネジメント研修、IPW ベーシック研修を体系立て実施する。

IPW マネジメント研修の目的：医療保健福祉の実践現場で専門職連携を推進するための課題を持った指導的立場・管理的立場の者が、専門職連携実践の推進に必要なマネジメント能力を高めることを目的とする。本研修において、医療と介護の連携やチーム医療が求められている日本の現状を踏まえ、実践の場での IPW 推進に向けた現任者研修計画案あるいはマネジメント計画案を立案・実践・評価する。

IPW ベーシック研修の目的：医療・保健・福祉・介護の各種機関で働く専門職連携を推進するための課題を持った実践者が、専門職連携実践の推進に必要な基礎的能力を高めることを目的とする。

本年度は、プログラムを【理論編】と【実践編】に整理して実施した。各研修の受講者は次の表のとおりである。本研修の受講者の学習ニーズをとらえるため、所属機関の種類・職種・所属先のある都道府県に分けて、受講者の状況を整理した。

【理論編】 57 名

所属	職種	都道府県	人数
医療機関	看護職	千葉県	7
		東京都	1
		神奈川県	1
		埼玉県	4
		長野県	1
	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	千葉県	5
		東京都	1
	MSW	千葉県	2
	介護士	東京都	1
	管理栄養士	千葉県	1
	臨床心理士	千葉県	1
大学・専門学校	看護学	千葉県	3
		北海道	1
		長野県	2
		静岡県	2
		岐阜県	1
		大阪府	2
		福井県	1
		富山県	2
	その他	東京都	1
薬局	薬剤師	千葉県	4
介護老人保健施設	看護職	東京都	4
	介護職	千葉県	1
		東京都	1
		埼玉県	1
	社会福祉士	大分県	1
その他	医師	東京都	1
	社会福祉士	大分県	1
	介護職	千葉県	1
	相談支援専門員	千葉県	2

【実践編】 合計 59 名

研修	所属	職種	都道府県	人数	計
介護と看護	医療機関	看護職	東京都	1	5
			長野県	1	
			千葉県	1	
		MSW	千葉県	1	
		介護士	東京都	1	
	介護老人保健施設	看護職	東京都	2	4
		介護職	千葉県	1	
			東京都	1	
	大学	看護職	長野県	1	1

研修	所属	職種	都道府県	人数	計
職種間理解	医療機関	看護職	千葉県	4	9
			東京都	1	
			埼玉県	1	
		MSW	千葉県	1	
		介護士	東京都	1	
		言語聴覚士	千葉県	1	
	大学・専門学校	看護職	福井県	1	5
			長野県	1	
			富山県	1	
			大阪府	1	
		社会福祉士	東京都	1	
	介護老人保健施設	看護職	東京都	2	4
		介護職	千葉県	1	
			東京都	1	
	その他	介護職	千葉県	1	2
		相談支援専門員	千葉県	1	

研修	所属	職種	都道府県	人数	計
対立の解決	医療機関	看護職	千葉県	2	11
			東京都	1	
			埼玉県	3	
		理学療法士	千葉県	1	
		言語聴覚士	千葉県	1	
		管理栄養士	千葉県	1	
		介護職	東京都	1	
		MSW	千葉県	1	
	大学・専門学校	看護職	大阪府	1	5
			福井県	1	
			長野県	1	
			富山県	1	
		社会福祉士	東京都	1	
	介護老人保健施設	看護職	東京都	2	4
		介護職	千葉県	1	
			東京都	1	

研修	所属	職種	都道府県	人数	計
カンファレンスの基本動作	医療機関	看護職	東京都	1	2
		MSW	千葉県	1	
	大学・専門学校	看護職	千葉県	2	4
			長野県	1	
		社会福祉士	東京都	1	
	介護老人保健施設	看護職	東京都	1	3
		介護職	千葉県	1	
			東京都	1	

実施直後のアンケートでは、満足度は高い結果であった。3 か月後のフォローアップアンケートでは、研修で学習したスキルや知識を現場で活用しているとの回答があった。活用しているスキルとしては職種間の情報伝達スキル、対立の解決方法などが挙げられている。（報告書記載時、アンケート回収途中）

特に実践編は、実践で求められるチームワークの段階や連携実践活動の種類によって、必要となるスキルを整理し、改めてコンテンツを構成しなおして来年度に反映させたい。

③地域包括ケアシステムにおける連携協働の仕組みづくりへのコンサルテーションを実施する。

A 千葉県からの委託事業「認知症専門職における多職種協働研修」

本研修の目的は、認知症の人と家族の支援に携わる医療・介護・福祉等の専門職同士が、認知症に

関わる現状や知識・情報を共有するとともに、お互いの役割や活動内容等を理解し、連携をとり協働しやすい関係をつくることである。

研修は令和元年 11 月 10 日（日）と 12 月 15 日（日）の 2 回実施し、合計 167 名が参加した。プログラムは以下のとおりである。

1. オリエンテーション
2. ワークショップ「アイスブレイク私の仕事紹介」
3. 講義「専門職連携の基礎知識」
4. ワークショップ「認知症の人の理解」
5. ワークショップ「多職種カンファレンス」

講師：酒井郁子センター長

井出成美特任准教授

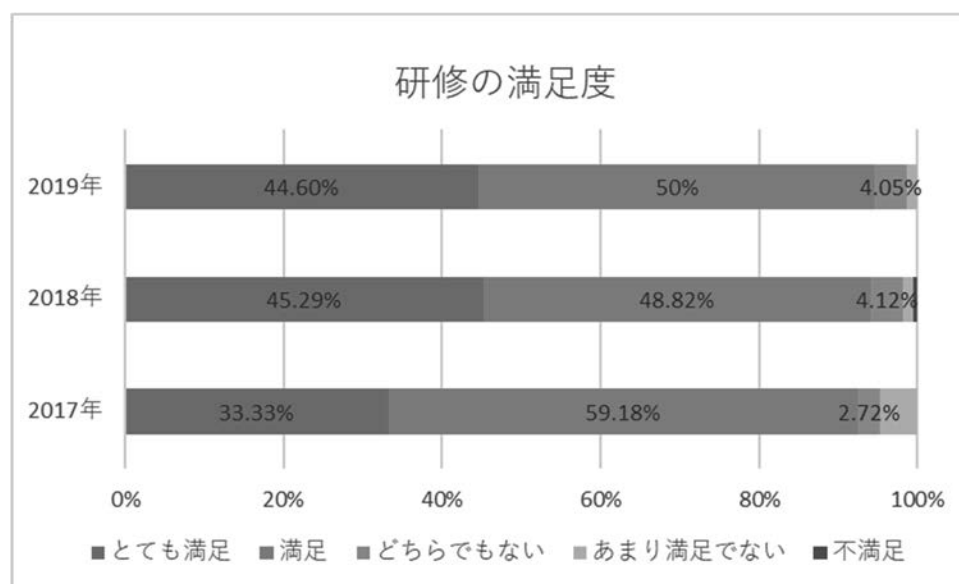
臼井いづみ特任講師

馬場由美子特命助手

（株）シルバーウッド 黒田麻衣子氏

認知症多職種協働研修では、受講者にアンケートを実施し、満足度と意見を尋ねている。

2018 年度では、ワークの時間が足りないという意見があった他、振り返りの視点が難しく受講者に戸惑いが見られた。そこで、2019 年度は講義の時間を減らし、ワークショップの時間を延長した。また、振り返りの方向を明示するなどの改善を行った。その結果、とても満足と満足合わせた割合が 94.11%から 94.6%へと上昇し、不満足も無くなった。第 1 回目のワークショップ「認知症人の理解」で VR 体験が出来なかったことを考慮しても、高い満足度が得られたと考えられる。



B 千葉市東千葉地区における住民の地域活動「地域の和・輪・環の会」

また、千葉市東千葉地区における住民の地域活動「地域の和・輪・環の会」への関りを継続した。普遍科目の「チームで取り組む地域活動入門」、大学院科目の「災害時専門職連携演習」において、住民の協力をいただいた。（＊災害時専門職連携演習は、新型コロナウイルス感染症対策のため令和 2 年度に延期となった）

3) 政策提言

（1）厚労省、文科省との連携による IPE 必修化への提言

- ①厚労省看護基礎教育検討会（仮）構成員にセンター長として入り、平成 32 年の改正省令施行、平成 34 年の改正省令を適用した教育の開始に向けた提言を行う。

②健康関連専門職基礎教育課程における共通科目の設定について、厚労省、文科省に意見を提出する。

酒井センター長が、厚生労働省の看護基礎教育検討会委員として 2022 年度の保助看法の改正省令（保健師助産師看護師養成学校指定規則）を適用した新カリキュラムを念頭にした検討に参画し専門職連携教育の位置づけについて提言を行った。新カリキュラムの看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの臨時実習「看護の統合と実践」に多職種と連携・協働しながら看護を実践する実習を行うことが望ましいことが記載された。

3. 研究

1) IPE 研究の進化

（1）IPE および IPW の理論化及び成果検証研究の実施公表

①医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート

酒井センター長が定期的あるいは不定期に、各学部の教員の IPE 研究の助言指導を行った。また、IPE 研究グループを組織し、定期的にリサーチミーティングを実施している。

②IPE 等成果研究の発信

玄鼻 IPE や IPW 研修等の成果評価研究を実施し、学会発表した。

1. Mayumi ASAHINA, Narumi IDE, Izumi USUI, Kana KUROKOCHI, Ikuko SAKAI, Shoichi ITO: A qualitative study on the impact of IPE in clinical clerkships on clinical educators. AMEE2019, Aug, Austria centre Vienna, 2019.
2. Izumi USUI, Tomoko MAJIMA, Yoshihisa TATEISHI, Ikuko SAKAI, Mayumi ASAHINA, Masayuki ISHIKAWA: Research on the evaluation of secondary cardiopulmonary resuscitation training aiming at improvement of interprofessional collaborative competency. 2019 conference for Education in Medical and Simulation, August 3, 2019, Taipei.
3. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 酒井郁子: 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修プログラムの短期的効果の検証 第 2 報, 第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 56, 2019.
4. 酒井郁子: 看護職に必要な専門職連携教育, 第 22 回京都府看護学会収録, 9, 2020.

③IPE 実装の方法論の開発

酒井センター長が研究代表者として実施した「厚生労働行政推進調査事業：看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策に関する研究」によって得られた調査結果を基に作成した【基礎教育 IPE の実装手順書】を基に、IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修の教材を作成した。

④IPW、IPE の理論化

井出特任准教授が研究代表者をしている 文部科学省科学研究費：基盤研究 C「学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発」の研究計画に沿って実施している。

IPE は、その教育の結果としての学生が獲得すべきコンピテンシーの概念化と、それを図る測定用具も開発も進んでいるが、それを担保する教育プログラムの開発に関しては、そのデザインと実施のための適切な理論的ガイダンスが不足していることが指摘されている。本研究は、IPE 受講学生の専門職専門家実践能力の発展を促す効果的なプログラムの実装に有用な学習理論を開発することである。研究は、大きく分けて、A：既存の学習理論の検証研究【IPS フレームワークの検証研究】と B：新たな学習理論の開発研究【専門職間連携実践能力の発展を促す IPE の実装に有用な学習理論開発】の 2 つで構成する。現在は A のプロセスを遂行している段階である。カナダの IPE の背景理論となっている IPS の理論に沿った IPE の効果測定用具の日本語訳と検証作業に向けて研究を進めている。

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

(1) 新たな外部資金の確保

①研修事業を立ち上げ自己収入を得る

IPE カリキュラム研修、IPW ベーシック研修・マネジメント研修の受講費の収入を得た。約 170 万円の自己収入を得た。

そのほか、文部科学省の科学研究費補助金の獲得、千葉県からの研修委託（認知症に関わる多職種協働研修）、社会福祉法人からの寄付金の獲得により、事業運営の安定化を図った。

(2) 亥鼻キャンパス内での予算枠組みの再構築と事業運営の安定化

①亥鼻キャンパス内での予算枠組みの安定をはかり事業運営の安定化を図る

昨年度から、亥鼻 IPE に参画する 4 つの学部で協議して構築した予算枠組み「亥鼻 IPE 実施共通経費」を財源として、教育部分の事業運営ができた。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

①年間事業計画の策定と実施、評価

長期計画（2015-2019）および後期中期計画（2018-2019）に基づいて令和元年度事業計画を立てそれに沿って事業実施し、実績をまとめて運営委員会及び外部評価委員会にかけ評価を実施した。

②各種運営マニュアルの修正

センター主催の研修など、事業が増えたため、受講生の受講証明発行や、受講者管理のシステムやマニュアルを整えた。

また、海外からの見学者や視察への対応のための対応マニュアルや資料セットなどの整備をした。

③運営委員会の開催

令和元年 5 月 14 日、10 月 15 日、令和 2 年 2 月 12 日に運営委員会を開催した。

④教育実践研究部会の開催

必要に応じて、各学部兼務教員と特任教員で構成する教育実践研究部会を開催した。本年は、メール会議にて、下記の議題について実施した。

- ・令和 2 年度亥鼻 IPE 日程について
- ・令和 2 年度亥鼻 IPE 協力教員について

3) IPERC の将来構想

①IPERC を含む総合教育棟の概算要求

看護学研究科の再編、建物の建て替え計画の時期に合わせ、IPERC の発展形としてのセンター構想計画を実現できるよう、大学執行部との協議を行った。

②IPE に関する大学院の設置に向けた検討

看護学研究科の 2 次再編に向けて、専門職連携関係の科目を再構築し、「継続教育方法論」「専門職連携実践論」「災害時専門職連携演習」として、提供する体制を整えた。今後他分野の大学院生にも受講可能にできるよう検討していく。

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 令和元年度(2019年度)外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、令和元年度外部評価委員会を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、メール会議として開催した。

日 時：令和2（2019）年3月12日（木）～19日（木）

メール会議参加者 外部評価委員 4名

川島 啓二 京都産業大学共通教育推進機構
新井 利民 埼玉県立社会福祉こども学科
福田 浩子 千葉県市川健康福祉センター
井手 正明 千葉大学医学部 SP（模擬患者）会
渡邊 秀臣 群馬大学大学院保健学研究科

2. 外部評価委員による講評

外部評価委員には、令和元年度の事業実績について、「A：計画より進捗している、B：計画通り進捗している、C：計画よりやや遅れがある、D：計画よりかなり遅れがある」の評価基準での評価と総合評価コメントをいただいた。外部評価委員からの評価コメント（原文まま）を掲載する。

	IPERC 自己評価	外部評価委員評価			
		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
1. 教育	B		5名		
2. 実践・社会貢献	A	4名	1名		
3. 研究	B		5名		
4. 組織運営	B	1名	4名		

【総合評価コメント】

A 委員	1 教育について ・看護学部のカリキュラム改正に伴い受講生が増加したことに対して、発表会場の分散や指導教員の増員等工夫して実施していました。次年度も分散して発表会を予定していますが、分散したことによる他会場の発表・意見交換についても受講生が共有できるような工夫もあると良いと考えます。
	2 実践・社会貢献について ・千葉大学以外の大学や実務者への研修の機会を多く企画・実施し、より多くの受講しやすい環境及び研修プログラムを工夫していることがわかりました。生涯教育にもつながる内容で、IPEの目的である患者・サービス利用者中心の医療に即していると考えます。
	3 研究について ・引き続き取り組んでいただきたい。
	4 組織運営・PDCAに基づく組織運営を効果的に実施するため、これからも計画・実績等のわかりやすい可視化、発信に努めてください。
B 委員	教育の分野では、カリキュラムの変更にとまなう運営の改善や、授業評価アンケート等の評価・分析を踏まえた学習コンテンツ・Moodle/e-learningの改善が着実に実践されています。実践・社会貢献の分野では、受講者の拡がりを受けて研修内容を改善し、満足度の向上を図るとともにより多くの受講費収入を得られています。研究の分野ではリサーチミーティングを元にして、研究を推進されその成果を着実に発信されています。組織運営では、経験や勘に頼らずデータに基づいたPDCAサイクルを実践されています。教育、実践・社会貢献、研究、それぞれの分野の着実

	な成果はこの PDCA サイクルの実践によるものである事を踏まえ、組織運営の評価は「A」とします。 新型コロナウイルスの感染拡大で、統制の取れた広範かつ迅速な医療サービスが求められる中、IPREC の様々な活動が益々重要になっていると実感します。IPE 研究・普及・人材育成をさらに促進されることを期待します。
C 委員	1. 教育 ● グローバル IPE の協力大学数の増加が著しく評価できる。今後はグローバル IPE を実施する「目的」や「目標」をどこに置くのかを明示し、その達成度について評価を行う必要があるのではないか。つまり、異なる言語・文化圏での IPE の経験を、学生のその後の学習や進路、研究との兼ね合いでどのような能力を形成するための取り組みとして位置付けているのかを、検討する必要があると思われる。 ● クリニカル IPE や他のプログラムにおいて在宅医療・在宅福祉における IPW を学ぶ機会がどの程度あるのか読み取れなかった。そのような機会を全学生に提供することは困難だが、在宅ケアに関わる IPW からの学びを発表する学生が一つでもあれば、病院医療の文化だけではない IPW の形を学び合うことができるのではないか。 4. 組織運営 ● 寄付や外部資金などで独自財源の獲得を行っており、評価できる。長期的な視野の元、センタースタッフを継続的に雇用し、運営ノウハウが維持・継続・伝承できるような体制づくりを、学部や大学本部との交渉によってさらに進めていただきたい。
D 委員	全体的に見れば、事業計画の各項目ごとに適切かつ順調に進捗していると思われるが、各取組の実施概要のみの記述が多く、目的、内容、方法、成果などを窺いにくかったように思われる。例えば、【教育】の新たな IPE プログラムの開発に関して、海外大学との学生交換の例が挙げられているが、どの程度の規模の交換であり、どのような効果（学習成果やプログラムの改善）があったのか具体的に知りたいところである。ファシリテーター教員対象の FD も然り。【実践・社会貢献】については、各方面からの引き合いも多く、自己評価 A が相当であろう。【研究】については、IPW、IPE の理論化などは進行中と推察されるが、今後に注目したい。【組織運営】についても妥当な自己評価がなされているものと判断される。 従来から抱え続けている課題なのであるが、「専門職連携学」の構築をビジョンとして掲げたときに、教育、実践・社会貢献、研究、組織運営という 4 つの柱は、活動領域なのであって、その学特有の知識体系や存立理念、当事者の行動規範などを整理する基本的枠組とは直接には結びつかないように思われる。「専門職連携学」の基盤となる哲学のようなものに結びついていく「兆し」（諸活動の端々にでも）を見出したいところである。
E 委員	教育については、グループ構成による活性化が図られ、Moodle の活用も具体的に評価を行っている。CIPE では 10 診療科の協力体制など充実が図られ、必修化への進展が評価される。国外との交流による教育の充実体制が構築されている。授業開発研修に県内の教育機関からの参加がないことから e-learning 等の工夫が必要である。また本プログラムの構成上頻回の FD が開催されるが、教員の負担が危惧される。 社会貢献では、多数の国内の他大学への普及活動は高く評価される。また、大学病院での資格取得後の IPE への取り組みに必要な病院との連携が構築されていることは評価される。 政策提言として指導ガイドラインに多職種連携の実習における必要性を記載されたことは大きな成果といえる。 研究に関しては、国内外の学会に積極的に参加、発表しているが、具体的な論文の発表がないことは今後の課題である。本分野のデータは膨大となり解析に時間がかかることは理解できる。 研修事業による自己資金の獲得は組織運営の観点から高く評価できる。

3. 外部評価委員の講評のまとめ

PDCA サイクルによるセンター運営を行う上で重要な外部評価を受けた。5 名の外部評価委員は、大学教育の専門家、IPE に精通している他大学の教員（異領域から 2 名）、県内地方自治体の保健福祉分野の行政職、玄鼻 IPE の協力者という多方面からご参集いただいた。以下、委員の評価・コメントを踏まえて今後の課題を記載した。

1) 教育について

カリキュラム改編などの変更があるなか、既存のプログラムの安定的な発展のために、授業評価アンケートや学生や教員からのフィードバックを基に改善を重ねている努力、またグローバル IPE の拡充について高評価をいただいた。グローバル IPE については、目的や目標を明確にし、評価計画を立てることが課題であると指摘を受けた。先方の教員と協議を重ね、着実に進めていく必要がある。

大学院における IPE プログラムの発展については、センターのビジョンである専門職連携学の構築に向けて、重要な布石となることから、看護学研究科ですでに開講しているいくつかの科目を発展させながら、教育事業・研修事業での実績を基盤にして科目体系を整えつつ、関係者と話し合いを進めながら着実に進めていきたい。

2) 実践・社会貢献について

IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修、IPW マネジメント研修、IPW ベーシック研修の実施について、昨年度の引き続き、社会の受容に応じている事業としてその意義を評価していただいた。受講料による自己収入を得られた点でも、組織運営の面でも運営の安定化への貢献として評価された。アンケートの分析等から内容の充実、方法の改善を図り充実させていきたい。

3) 研究について

教育評価研究について、リサーチミーティングの開催による研究推進や国内外の学会等での発信について評価いただいた。さらに論文化、書籍化などプロダクツとして成果を広めていくことを課題にして一層努力していきたい。

4) 組織運営について

昨年度に引き続き外部資金、企業からの寄付や研修事業による収益を得て運営の安定化を図ったことや、PDCA を回し改善を図っている努力について評価いただいた。

評価の視点について、事業の実施評価だけでなく IPERC のビジョンの達成評価を求められた。次期 5 か年計画に際しては、評価の視点についても再検討したい。

V. 平成 27～令和元年度（2015-2019）5 か年計画の総括と次期 5 か年計画

○平成 27 年ー令和元年 （2015-2019） 総括

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、効果的な「亥鼻 IPE」（Step1～Step5）の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施できる体制を構築する。

各 Step の前後に実施している自己評価の分析、授業評価アンケート、従事した教員からのフィードバック、実習フィールドの指導者からのフィードバック等の分析を通じて、各 Step の学習コンテンツの改善、授業方略の改善を実施できた。具体的には Step1 は、工学部 3 年生の参加に伴う学習ガイドの修正、授業日程・学習コンテンツの整理を行った。Step2 は、学習到達目標に合わせたフィードバック演習の導入、フィールド見学実習の事前学習を効果的に促すための反転授業の導入を行った。Step3 は看護学部生のカリキュラム改正に伴い、2018 年度から実施学年が 3 年生から 2 年生に変わることに伴い学生のグループダイナミクスや教材の適切性などを検討した。Step4 は一部講義を e-learning と反転授業に変更し学生の主体的学習を推進する改善をした。また模擬患者演習のシナリオの追加修正を毎年行った。

学生の自己評価の分析では、学部間での有意差が確認され、影響要因の特定やカリキュラムの効果性や公平性を検討することが課題である。

Step5 として臨床 IPE 試行事業を実施してきた。必修化までにはクリアすべき課題があるが、時期 5 か年の中で実現に向け検討を続ける必要がある。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

国内の他大学や海外との IPE に関わる交流を図り、多様な IPE プログラムを開発し蓄積する。

国内・国外の大学との IPE に関わる交流としては、下記の通りであった。

- ・国内の大学からは、カリキュラム構築のコンサルテーションや亥鼻 IPE の見学などの依頼が多く寄せられた。また、海外からは、インドネシアや韓国などアジア圏の国で IPE への関心が高く、ファカルティの来訪による情報交換やカリキュラム構築のコンサルテーション、本学センター教員が出向いての講演などの交流も実現できた。
- ・インドネシア・タイ・香港・韓国・米国から、学生が亥鼻 IPE に参画した。

多様な IPE プログラムの開発としては下記の通りであった。

- ・グローバル IPE プログラムの開発着手

本学の ENGINE プログラム実施に伴い、グローバル IPE プログラムの開発に取り組むこととなり、カナダ、オーストラリアの IPE 先進大学との情報交換や協議を始めることができた。

- ・大学院での IPE プログラムの開発

看護学研究科で、「継続教育方法論」「専門職連携実践論」「災害時専門職連携演習」の科目を立て、専門職連携学構築のための一歩を踏み出した。

看護学研究科の再編に向けて、副専攻として専門職連携学の設定を視野に入れ検討していくことが次期の課題である。

(3) FD の充実

「亥鼻 IPE」を担うファシリテーター（以下、FT）養成の研修プログラムを開発して FT 研修（FD）を行い、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

亥鼻 IPE を担うファシリテーターは、Step ごとに、説明会 FD を企画し実行してきた。グループワークのファシリテーションは、学生の学習状況を評価しながらその必要性を吟味し、ファシリテーターの必要人数を増減させてきたが、ある程度定まってきた。今後はファシリテーションの質の向上を目指した FD の開催が課題である。また目標にあるような「IPE の人材バンクの組織化」というところ

までは至っておらず課題として残る。カナダの Toronto 大学など海外の IPE 先進大学でのファシリテーターのリクルートやリスト作成など従事教員確保の方法について情報収集し、参考にしていく。

一方、亥鼻 FD プログラムを発足させ、亥鼻キャンパスの全教職員を対象とした、教員間の相互学習による FD プログラムの開発も行ってきた。参加した教員の満足度は高く、ニーズに合った内容を提供できた。しかし学部による参加数の偏りなど課題はある。教員の関心のあるテーマや、参加可能な日時などの違いにどう対応していくか検討していく。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を担う人材育成や国内外の IPE 実践者へのコンサルテーションを広く展開するよう、開発・検証した IPE プログラムや研修プログラムを発信し、実施できるシステムを構築する。

Web サイトや SNS を活用し、亥鼻 IPE の PR や見学依頼の受付、酒井センター長らが開発した専門職連携実践能力評価尺度 (CICS29) の公開、IPERC 主催の研修プログラムも周知、スタディグループやジャーナルクラブの告知や報告、その他教育・研究・研修活動の PR に努めてきた。その成果もあり、国内外からのコンサルテーションの依頼や研修講師の依頼、研修事業の委託、CICS29 の使用願の増加などの反応があった。

また、2019 年 5 月には、2017 年に酒井センター長が看護職員確保対策特別事業（厚生労働省）研究の補助を受けて実施した調査研究の結果を踏まえ、日本看護学校協議会から「専門職連携教育ガイドライン」が出された。

今後は、開発した研修プログラムや IPE プログラムについて、広く社会に貢献するためにも、書籍の発刊や教材開発といった形でのプロダクツ作成が更なる課題である。

(2) IPW の促進

大学病院や地域における IPW コーディネーターの人材育成（現任者対象の IPE）に関する研修プログラムを確立し、研修を実施するための制度化を行う。あわせて、IPW を促進するための組織改善に関する管理者等の研修プログラムの開発と研修の実施及び IPW のコンサルテーション等を行うためのシステムも構築する。

2018 年度から「IPW ベーシック研修」「IPE マネジメント研修」を主催事業として開始した。参加者は看護職、介護職、社会福祉士、介護支援専門員、作業療法士、理学療法士、管理栄養士、医師など多岐にわたった。参加者の満足度も高く、継続する意義が高い。2017 年度からは千葉県から委託を受け、認知症にかかわる専門職のための多職協働研修を継続して実施しており好評を得た。

また、2017 年度から本学医学部附属病院の新入職員への IPW 研修を開始し、大学病院での IPW の推進のスタートを切ることができた。毎年改善を重ね定着し、2020 年度は時間数も増えた。

これらの研修は、参加する個々人の専門職連携実践能力を向上させる機会となっている一方、目標にあるような「IPW コーディネーター」としての能力開発については、まだ十分ではない。教室内研修にとどまらない実践的 IPW 研修が課題である。

また、これらの研修で開発した教材やデータベースの発信についても今後も課題である。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

酒井センター長が、厚生労働省の看護基礎教育検討会委員として 2022 年度の保助看法の改正省令（保健師助産師看護師養成学校指定規則）を適用した新カリキュラムを念頭ににした検討に参画し専門職連携教育の位置づけについて提言を行った。新カリキュラムの看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの臨時実習「看護の統合と実践」に多職種と連携・協働しながら看護を実践する実習を行うことが望ましいことが記載された。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

各研究プロジェクト・チームの成果を集積し、IPE/ IPWの理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、多様な分野に応用できる汎用性のある IPE/IPW の研究方法論を開発、提唱する。

亥鼻 IPE の教育評価に関しては、プロジェクトチームを組み、蓄積した膨大なデータを多視点から分析する努力を継続してきた。特任教員だけでなく、3 学部の教員の参加により、自己評価アンケートの分析、卒業時 CICS29 調査の分析、テキストマイニングによる最終レポートの採点用具の開発とそれによる評価、クリニカル IPE 試行事業の成果分析、学生の IPS（インタープロフェッショナルソーシャルライゼーション）の進展の分析など、様々な視点での研究が継続中である。

また、IPW 研修に関してもその評価研究を継続して行った。

今後の課題は、IPE 研究者の育成、学生の IPE 体験の蓄積、現場の IPW 体験の蓄積、IPW の理論化、IPE カリキュラムデザインの研究である。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

IPERC は亥鼻高機能化事業として予算化されているので、新たな事業費や研究助成金の確保を迫り、発展的な事業展開ができるようにする。また、センターのリソースパーソンの確保と活用ができるよう組織拡大を図る。

亥鼻 IPE の運営に関しては、安定的で恒久的な予算の獲得が必要であり、これについては、4 学部の学生定員数に応じた拠出を基にした共通経費を財源化する仕組みを構築できた。また、2018 年度から主催事業である IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修、IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の受講料により自己資金を得ることができるようになった。さらに特任教員および兼務教員による文部科学省の科学研究費獲得により、IPE 関連研究に必要な研究資金も獲得した。

人材確保に関しては、クロスアポイント制度などを活用し、IPE・IPW に関わる研究や実務を担当できる人材の確保を検討していく。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

教育・社会貢献・研究について、PDCA を回しながら運営し、発展進化できた。

(3) IPERC の将来構想

IPE/IPW の研究拠点として「大学院専門職連携学研究科（仮）」の設置に向けて検討する。

看護学研究科において、「専門職連携実践論」「継続教育方法論」「災害時専門職連携演習」という専門職連携関係の科目を設置した。今後、履修証明プログラムを導入し、看護職に限らず現場の医療保健福祉専門職が、専門職連携を学ぶプログラムの構築を検討していく。各研究科の大学院生も受講できるようにし、副専攻として位置づけられないかも含めて検討を重ねていく。

○令和2年ー令和6年（2020-2024）次期5か年計画

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、それぞれの Step を精査し必要なプログラムの開発を行う。それをもって効果的な「亥鼻 IPE」（Step1～Step5）の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

グローバル IPE をプログラム化し、学生間の国際的・学際的相互学習の場を開発する。海外の多様な IPE プログラムの経験値を蓄積し、カリキュラムデザイン研究を発展させる。大学院での IPE プログラムを開発する。この中で災害時の専門職連携実践を進化させるための教育プログラムの開発・普及をする。

(3) FD の充実

FD のしくみを確立させ、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

(4) 受益者の参加による IPE の発展

患者・サービス利用者等、医療・保健・福祉・介護サービスの受益者が亥鼻 IPE に参加する仕組みを開発する。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

センターで開発した IPE プログラムや研修プログラムを書籍や教材といったプロダクトとして作成し、社会に発信する。またプログラム開発に使用した資料やデータベースの発信・共有をはかる。

(2) IPW の促進

専門職連携実践能力の向上を目指した IPW 研修の質を高め、継続して提供する。また、実践現場の課題に即した IPW コーディネーターの人材育成に関する研修プログラムを確立する。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

学生の IPE 体験を蓄積し、IPE の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、IPE の成果に関する国際比較研究に取り組む。その過程で IPE 研究者を育成する。

(2) IPW 研究の進化

様々な保健医療福祉介護機関における実践者の IPW 体験や、患者・サービス利用者の満足度や健康アウトカムへの影響を蓄積し、IPW のアウトカム研究に資する理論開発を行う。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

新たな事業費や研究助成金の確保を迫及し、発展的な事業展開ができるようにする。人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用など、幅広く IPE・IPW に関わる研究や実務を担当できる人材の確保を図る。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

（３）IPERC の将来構想

ビジョンとして掲げている「専門職連携学」の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入、副専攻の設置などを検討する。

Ⅵ. 資料

(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績

受講学生数 (総計12,639名)																							
年次	Step1					Step2				Step3					Step4				クリニカルIPE				合計
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他(他大生)	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	
2007	97	86	85	-	268	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	268
2008	100	81	83	-	264	97	83	83	263	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	527
2009	109	84	80	-	273	97	83	83	263	97	85	43	-	225	-	-	-	-	-	-	-	-	761
2010	109	84	80	-	273	108	83	77	268	102	78	50	-	230	95	89	41	225	-	-	-	-	996
2011	113	84	86	-	283	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	-	-	-	-	1019
2012	117	85	88	-	290	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	-	-	-	-	1035
2013	118	84	88	-	290	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	-	-	-	-	1074
2014	119	84	83	-	286	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	-	-	-	-	1078
2015	121	83	87	-	291	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	4	4	3	11	1099
2016	119	80	84	-	283	119	84	87	290	123	85	45	5	258	131	83	40	254	15	13	13	41	1126
2017	118	84	86	54	342	117	80	84	281	125	80	45	5	255	124	84	40	248	17	17	16	50	1176
2018	117	84	85	44	330	114	80	84	278	117	158	42	4	321	132	79	45	256	11	17	10	38	1223
2019	123	82	89	46	340	116	81	85	282	122	81	55	3	261	118	160	51	329	14	14	17	45	1257
					3813				3358					2791				2492					12639

協力教員及び外部機関専門職 ※IPERC教員を除く (総計1561名)												*医学部は附属病院医師含む。					
												**附属病院は医師以外					
年次	Step1 (教員)					Step2 (教員、外部機関専門職)						Step3 (教員、外部機関専門職)					
	*医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計
2007~2010	31	44	37	-	112	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-	28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-	40	4	6	5		0	15	4	6	5	0	-	15
2014	12	15	15	-	42	5	5	7		0	17	4	10	6	3	40	63
2015	17	12	6	-	35	7	7	6		22	42	15	8	5	3	24	55
2016	16	10	7		33	6	6	7	2	1	22	7	13	6	3	1	30
2017	14	11	7	10	42	6	6	6	2	1	21	8	10	6	-	-	24
2018	12	9	6	12	39	7	5	5	1	0	18	9	9	6	-	-	24
2019	18	9	7	13	47	12	6	5	1	0	24	12	11	7			30

年次	Step4														クリニカルIPE								合計
	医学部	看護学部	薬学部	附属病院										外部機関	計	医学部	看護学部	薬学部	附属病院			計	
				医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー	遺伝カウンセラー	管理栄養士						医師	看護師	薬剤師		
2007~2010	1	2	2	11	10	3	3	3	2	6	1	1	4		49	-	-	-	-	-	-	-	49
2011	2	6	2	9	6	1	3	3	2	3	1	1	2	1	42	-	-	-	-	-	-	-	154
2012	3	4	2	11	7	3	2	3	1	5	1	1	4		47	-	-	-	-	-	-	-	75
2013	5	6	3	9	9	3	3	3	1	5	1	2	4		54	-	-	-	-	-	-	-	82
2014	3	5	3	10	9	3	3	3	1	4	1	1	4		50	-	-	-	-	-	-	-	120
2015	1	8	5	16	9	3	3	3	2	5	1	1	4		61	2	4	1	3	2	0	12	195
2016	1	9	7	14	9	4	3	3	2	7	0	2	4		65	2	5	2	13	22	19	63	260
2017	2	7	6	13	9	5	3	3	1	7	1	2	4		63	2	8	3	14	20	14	61	209
2018	1	10	5	15	10	5	4	4	2	4	1	2	4		67	2	8	2	9	15	12	48	196
2019	2	7	5	16	11	5	3	3	2	7	1	0	4		66	2	8	3	13	13	15	54	221
																							1561

協力TA [大学院生] (総計236名)																			
年次	Step1				Step2				Step3					Step4					合計
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1		4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1		6	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	1	3	0	1	5	12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	5	4	1	4	0	9	27
2018	0	2	4	6	2	0	4	6	0	1	2	0	3	0	2	6	0	8	23
2019	3	7	2	12	3	6	3	12	0	3	2	0	5	3	0	2	1	6	35

実習協力施設 (総計690施設)										
年次	Step1	Step2							クリニカルIPE	合計
	病院	病院	診療所・クリニック	薬局	訪問看護ステーション	回復期リハビリテーション病棟	保健機関・介護福祉施設	計	附属病院診療科	
2007~2010	24	15	32	52	25	-	21	145	-	169
2011	6	5	11	15	11	-	8	50	-	56
2012	6	5	9	22	9	-	4	49	-	55
2013	6	6	12	21	6	-	3	48	-	54
2014	7	6	11	17	6	3	2	45	-	52
2015	6	6	11	15	5	4	3	44	2	52
2016	6	7	11	15	5	6	3	47	10	63
2017	7	11	10	15	5	3	5	49	12	68
2018	7	7	11	13	5	3	3	42	9	58
2019	7	5	14	17	5	3	2	46	10	63

FD/SDの参加者数 (総計1454名)								*2016~亥鼻FDプロジェクト開始			
年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計	授業に協力いただいた患者団体 (総計81団体)			
		実習施設担当者	ファシリテーター								
2007~2010	88	44	-	-	28	105	265	2007~2010	48		
2011	17	33	-	-	23	-	73	2011	17		
2012	17	31	-	-	17	-	65	2012	2		
2013	20	17	-	-	25	-	62	2013	2		
2014	31	15	-	61	25	-	132	2014	2		
2015	10	28	43	52	24	22	179	2015	2		
2016	21	42	-	29	35	54	181	2016	2		
2017	23	21	-	21	29	134	228	2017	2		
2018	22	36	-	16	25	43	142	2018	2		
2019	17	27	-	21	26	36	127	2019	2		
							1454				81

(資料2) 令和元年度亥鼻 IPE 学習のまとめ (別冊)

(資料3) 令和元年度 試行事業報告 クリニカル IPE (別冊)

(資料4) 地域貢献事業実績
【国内】

依頼内容の 種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間	場所	対応者
1 事業委託	行政機関	千葉県健康福祉部高齢者福祉課	認知症専門職における多職種協働研修の受託	専門職連携の基礎的知識、認知症の人の理解、多職種カンファレンスほか	2019.11.10 12.15	9:00-16:00	看護学研究科 講義・実習室	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
2 コンサル(授業 視察)	行政機関	文部科学省	玄鼻IPE Step4の視察	玄鼻IPE Step4の 一部(前半1日目午後)の見学およびディ リフティング	2019.9.18	13:00-17:00	医学部附属病院 CCSCおよびIPERC	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
3 コンサル(授業 視察)	他大学	兵庫医療大学	玄鼻IPE Step4の視察	玄鼻IPE Step4の 一部(前半3日間)の見学およびディ リフティング	2019.9.18-9.20		医学部附属病院 CCSCおよびIPERC	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
4 コンサル(授業 視察)	行政機関	文部科学省	玄鼻IPE Step3の視察	玄鼻IPE Step3の一部(2日目)の見学	2020.1.9	8:50-16:00	看護学研究科	兼務 朝比奈真由美 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
5 コンサル(その 他)	行政機関	厚生労働省	看護基礎教育検討会	2022年改正に向けた看護教育の見直しへの提言	2019.7.29 9.12 9.30		厚生労働省	酒井郁子センター長
6 主催事業			IPEカリキュラムマネジ メント&授業開発研修	教育プログラム設計の基礎 専門職連携の基礎知識 IPE実装に向けた組織分析と計画立案	2019.8.10 2019.11.23	9:30-16:00	看護学研究科	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
7 主催事業			IPWベージング研修・マネ ジメント研修【理論編】	専門職連携の基礎的知識 チームとは 対立の解決	2019.7.28 2019.10.19	13:00-16:00	看護学研究科	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
8 主催事業			IPWベージング研修【実践 編】1	職種間の理解・コミュニケーション	2019.11.12	16:00-19:00	薬学部講義室	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
9 主催事業			IPWベージング研修【実践 編】2	対立の解決	2019.12.3	16:00-19:00	看護学研究科	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
10 主催事業			IPWベージング研修【実践 編】3	カンファレンスの基本動作	2019.12.17	16:00-19:00	看護学研究科	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子

11	主催事業			IPWベーシック研修【実践編】4	介護と看護の連携	2019.11.5	16:00-19:00	薬学部講義室	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
12	主催事業			IPWマネジメント研修【実践編】	IPWを推進するための組織分析と推進計画立案	2020.2.10	9:00-16:00	看護学研究科	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
13	講師派遣	学内	千葉大学医学部附属病院	大学病院入職者研修	講義とワークショップ 医療安全に役立つIPW	2019.4.1	14:15-14:45	医学部附属病院 ガ－ネットホール他	兼務 朝比奈真由美 兼務 伊藤彰一 兼務 眞嶋朋子
14	講師派遣	他大学	群馬大学 WHO協力センター多職種連携教育研究研修センター	IPE Training Course 2019での招聘講演		2019.8.28		群馬大学	酒井郁子センター長
15	講師派遣	その他	千葉県医薬品登録販売者協会	登録販売者生涯学習研修会 講師	A講座-第2講座「皮膚の痒み、肌荒れ」 A講座-第3講座「にきび」、「ふけ」	2019.9.16	13:00-17:00	千葉県薬剤師会	兼務 関根祐子
16	講師派遣	職能団体	静岡県看護協会	専任教員養成講習会講師	看護教育方法(専門職連携教育)の講義と演習	2019.10.4	9:00-16:00	静岡県看護協会	特任 井出成美
17	講師派遣	保健医療福祉機関	関愛会	職員研修	専門職連携の基礎的知識 対立の解決ワーク チームとは	2019.10.5	13:00-17:00		特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
18	講師派遣	保健医療福祉機関	九段坂病院	職員研修	多職種連携正しく理解していますか? -高めよう九段坂病院の連携力! -	2019.10.18	18:00-19:30	九段坂病院	特任 井出成美
19	講師派遣	その他	公益財団法人東京都副保健財団高齢者権利擁護支援センター	看護実務者研修講師	多職種協働:講義とワーク	2019.11.28 12.20	13:00-14:40	東京都保健福祉財団	特任 井出成美 特任 臼井いづみ 特命 馬場由美子
20	講師派遣	他大学	金沢大学医学部	コンサルテーション	プロフェッショナルナリズムに関する Appreciative Inquiry	2019.12.27	15:00~16:30	金沢大学医学部 宝町キャンパス	兼務 朝比奈真由美
21	講師派遣	学会	京都府看護学会	特別講演	看護職に必要な専門職連携教育-医療者としてお互いにお互いからお互いについて学ぶために-	2020.1.25		京都テルサ	酒井郁子センター長
22	講師派遣	他大学	島根大学	ダイバーシティ推進室企画さぼっどカフェ	教員向けIPEの紹介	2020.2.20	18:00-19:30	島根大学	兼務 朝比奈真由美 特任 井出成美
23	講師派遣	他大学	島根大学	学生サークルSips	学生主催のIPEネットワーク形成企画での話題提供	2020.2.21	17:30-19:30	島根大学	兼務 朝比奈真由美 特任 井出成美
24	情報発信	学内	看護学研究科	オープンキャンパスでのIPERCのPR	玄鼻IPEの紹介、IPERC業務の紹介(ポスター展示)	2019.8.9		看護学研究科	特任 井出成美

25	情報発信	学内	看護学研究科	オープンキャンパスでの IPERCのPR	玄鼻IPEの紹介、IPERC業務の紹介(ポスター展示)	2019.8.9		看護学研究科	特任 井出成美
26	CIGS29	他大学	宮崎県立看護大学 助教	CIGS29を使用する	感染管理を推進する看護職者の専門職連携実践能力を育む 教育プログラムの有用性評価(教育介入前後での調査に使用)	依頼日: 2019.3.19 使用許可: 2019.3.27			酒井郁子センター長
27	CIGS29	他大学	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程 院生	CIGS29を使用した	介護施設における認知症高齢者の生活機能を支える多職種 協働の実態把握	依頼日: 2019.4.17 許可日:			酒井郁子センター長
28	CIGS29	他大学	長崎県立大学 看護栄養学部看護学科老年看護学	CIGS29を使用した	高齢者長期ケア施設における看護師のコンピテンシーの構造 の研究において調査集団の専門職連携実践能力の現状把握 (縦断的な調査も視野に入れて検討)	2019.6.24			酒井郁子センター長
29	CIGS29	他大学	東海大学医学部付属病院看護部 東海大学大学院健康科学研究所看護学専攻	CIGS29を使用した	特定機能病院における看護師の患者安全に資するコミュニ ケーションと関連要因の検討	2019.6.26			酒井郁子センター長
30	CIGS29	保健医療福祉機関	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	CIGS29を使用した	放射線科領域のチーム医療にかかわる多職種協働の現状把握	2019.6.30			酒井郁子センター長
31	CIGS29	保健医療福祉機関	秋田県厚生連大曲厚生医療センター	CIGS29を使用した	脳神経外科における急性期病棟看護師とリハビリ職との連携 に対するアプローチの効果を評価(研究前後での意識変化を 調査)	2019.7.6			酒井郁子センター長
32	CIGS29	保健医療福祉機関	医誠会病院	CIGS29を使用した					酒井郁子センター長
33	CIGS29	保健医療福祉機関	滋賀県立リハビリテーションセンター	CIGS29を使用した	看護師・リハビリテーション専門職などの医療専門職を対象と した多職種連携にかかわる能力評価(研修などの機会によ り能力への影響を検討)	2019.7.29			酒井郁子センター長
34	CIGS29	大学以外の教育機関	赤塚学園看護専門学校	CIGS29を使用した		2019.8.5			酒井郁子センター長
35	CIGS29	大学以外の教育機関	鳥根リハビリテーション学院 作業療 法学科	CIGS29を使用した	『作業療法士における多職種連携能力と多職種間コミュニ ケーション、上司との関係』	2019.8.7			酒井郁子センター長
36	CIGS29	保健医療福祉機関	北里大学病院 移植医療支援室	CIGS29を使用した	大学病院における専門職【NP・CNS・コメディケーター等】を担 う係長・主任看護師の多職種連携の実践能力について評価	2019.8.26			酒井郁子センター長
37	CIGS29	保健医療福祉機関	リハビリテーション天草病院	CIGS29を使用した	リハと看護・介護士との多職種連携において教育的プログラ ム前後でチーム間の認識が変化するかという研究	2019.9.11			酒井郁子センター長
38	CIGS29	保健医療福祉機関	東京医科歯科大学医学部附属病院 総合教育研修センター/消化器内科	CIGS29を使用した	本学で多職種研修を行うことになりCIGS29を活用、また、本 尺度を用いた内容で学会発表や論文作成。	2019.10.23			酒井郁子センター長

39	CICS29	大学以外の教育機関	関西看護専門学校	CICS29を使用したい	看護研究 テーマ「多職種連携の実践能力の育成を旨とした統合実習における学び」本研究は多職種連携の実践能力の育成を旨とした統合実習における学びを明らかにするために多職種連携の実践能力を測る尺度（CICS29）と自由記載欄を設けた調査用紙を用いて分析する質的・量的研究とする。	2019.12.15			酒井郁子センター長
40	CICS29	他大学	東邦大学看護学部看護学科	CICS29を使用したい	東邦大学医療センター大森病院において、スタッフの多職種連携の実践能力向上にむけ、病院内の多職種合同での取り組みを行っており、その教育効果を測るためCICS29を使用したい。	2019.12.20			酒井郁子センター長
41	CICS29	学内	千葉大学大学院医学研究科 診断推論学 医学部附属病院 総合診療科	CICS29を使用したい	AMEEの抄録作成に使用。	2020.1.20			酒井郁子センター長
42	CICS29	他大学	札幌市立大学大学院看護学研究科 看護学専攻	CICS29を使用したい	回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の多職種連携の実践能力に関する研究において、看護師の多職種連携の実践能力を測定するため、CICS29を使用したい。	2020.1.30			酒井郁子センター長

【海外】

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
1	講義（講師派遣）	他大学	韓国 仁済大学	仁済大学各学部の教員向けのFD（講義とワークショップ）の実施	仁済大学各学部の教員向けのFD（講義とワークショップ）のIPEの説明、千葉大学のTPEカリキュラムの紹介、ワークショップでIPEのアウトカムの作成。	2019.5.15	14:00-16:30	仁済大学TBL(ITグループ学習)室	兼務 朝比奈真由美
2	コンサル(授業観察)	他大学	韓国 仁済大学	玄鼻IPE Step4の視察	玄鼻IPE Step4の一部(後半3日間)の見学およびディブリーフィング	2019.9.24-9.26		医学部附属病院CCSCおよびIPERC	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美 医学部 稲川知子 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
3	コンサル(授業観察)	他大学	韓国 仁済大学	玄鼻IPE Step4の視察	玄鼻IPE Step4の一部(後半3日間)の見学およびディブリーフィング	2019.12.24, 2020.1.9		千葉大学玄鼻キャンパス	酒井郁子センター長 兼務 朝比奈真由美 医学部 稲川知子 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
4	その他	他大学	Hong Kong University	看護学部学生の玄鼻IPE参加	IPERCにて玄鼻IPEのオリエンテーション後Step3に参加	2020.1.9	8:50-16:00	千葉大学玄鼻キャンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子

5	その他	他大学	タイ コンケン大学	看護学部学生の亥鼻IPE 参加	IPECにて亥鼻IPEのオリエンテー ション後Step1に参加	2019.6.11 6.12,6.19		千葉大学亥鼻キャ ンパス	酒井郁子センター長 特任 井出成美 特任 臼井いつみ 特命 馬場由美子
6	コンサル(研修)	その他	株式会社瑠璃京 代表取締役 齊木 隆博	大学教員の派遣研修の 依頼	タイ国内の健康関連職種養成大学 教員のIPEに関する研修	2020.2.20		IPEC	酒井郁子センター長

〔資料5〕研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績（下線は兼務教員、二重下線は特任教員）を以下に示す。

〔原著〕

1. Tae Yamaguchi, Ikuko Sakai, The unlearning process of senior clinical nurses in rehabilitation wards. Journal of Advanced Nursing. 75(11),2659-2672 , <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jan.14050>. 2019.
2. Tomoko Majima, Takeshi Yamamoto, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Sumie Ikezaki : Job Satisfaction and Related Factors of Nurses in University Hospitals: Focusing on Collaborative Competency Factors. Journal of Nursing Management,27(7)1409-1415,2019.
3. Ai Tomotaki, Hiroki Fukahori, Ikuko Sakai, : Exploring sociodemographic factors related to practice, attitude, knowledge, and skills concerning evidence-based practice in clinical nursing. Japan Journal of Nursing Science, 2020 Jan;17(1):e12260 DOI:10.1111/jjns.12260, 2019.
4. Hajime Kasai, Shoichi Ito, Hiroshi Tajima, Yukiko Takahashi, Yoriko Sakurai, Naoko Kawata, Harutoshi Sugiyama, Mayumi Asahina, Ikuko Sakai, Koichiro Tatsumi : The positive effect of student-oriented clinical clerkship rounds employing role-play and peer review on the clinical performance and professionalism of clerkship students. Medical Teacher, 2020 Jan ; 42(1):73-78. DOI:10.1080/0142159X.2019.1656330, 2019.
5. Shikino K, Ito S, Ohira Y, Noda K, Asahina M, Ikusaka M.: Usefulness of a short training seminar on how to handle difficult patients in simulated education. Adv Med Educ Pract. Jul 10;10:483-491, 2019.
6. 中口俊哉, 岩崎翔子, 関口陽太, 村竹虎和, 三浦慶一郎, 川田奈緒子, 伊藤彰一, 吉村裕一郎, 朝比奈真由美, 田邊政裕 : 拡張現実感技術を用いた対人型聴診訓練シミュレータ, 臨床栄養, 134(1),46-51,2019.
7. Mika Kozu, Mariko Masujima, Tomoko Majima: Experience of Japanese pregnant women with cancer in decision-making regarding cancer treatment and obstetric care, Jpn J Nurs Sci.1-10, DOI: 10.1111/jins.12300, 201
8. 佐野元洋,岡田将,永田絵里香,眞嶋朋子,小林欣夫: 訪問看護師を対象とした在宅心不全看護セミナーの評価と内容の改善, 医療職の能力開発,6巻2号,71-76,2019
9. Jeannine M. Brant, Regina M. Fink, Cara Thompson, Ya Huei Li, Maryam Rassouli, Tomoko Majima 他 : Global Survey of the Roles, Satisfaction, and Barriers of Home Health Care Nurses on the Provision of Palliative Care, J Palliat Med, Vol. 22 (8), pp. 945-960, 945-960,2019.
10. Fujita J, Fukui S, Ikezaki S, Tsujimura M : Evaluation of the elements of interprofessional education for end-of-life care among homecare nurses, care managers, and head care workers: A cluster-randomized controlled trial. J Interprof Care.1-8, 2019.
11. Fukui S, Fujita J, Ikezaki S, Nakatani E, Tsujimura M : Effect of a multidisciplinary end-of-life educational intervention on health and social care professionals: A cluster randomized controlled trial. PLoS One. 2019 Aug 19;14(8):e0219589.

〔研究報告（査読付き）〕

12. 路璐, 北池正, 池崎澄江 : 千葉県内の病院における看護研究の支援状況の実態と課題. 日本看護研究学会雑誌, 42 (2), 241-248, 2019.
13. 路璐, 北池正, 池崎澄江 : 中国の中堅看護師における専門職的自律性と看護研究活動との関連. 日本看護研究学会雑誌, 42 (5), 871-879, 2019.

〔学会発表抄録〕

14. 酒井郁子, 石川崇広, 雨宮歩, 小松亮, 櫻庭唱子, 磯野史郎 : 非接触非侵襲型モニタによる特別養護老人ホーム入所者の体調の長期的把握方法の検討. 日本老年看護学会第 24 回学術集会抄録集, 226, 2019.
15. 笠井大, 伊藤彰一, 田島寛之, 朝比奈真由美, 酒井郁子, 巽浩一郎 : ロールプレイとピア評価を活用した学生主導回診による診療技術, プロフェッショナリズム向上効果の検証. 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.) 90, 2019.

16. 朝比奈真由美, 松本暢平: 医師見習い体験学習で 3 年生はどのような経験をしているのか?. 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.), 2019.
17. 伊藤彰一, 鋪野紀好, 横尾英孝, 岩本太郎, 笠井大, 塚本知子, 鎌田雄, 高谷里依子, 若林華恵, 柄澤智史, 高木亜由美, 杉山淳比古, 長谷川誠, 神田真人, 雑賀厚至, 朝比奈真由美, 生坂政臣: Difficult Patient 対応ワークショップの学習効果は個室でのグループ討議によって向上する. 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.), 2019.
18. 小野寺みさき, 松本暢平, 伊藤彰一, 稲川知子, 朝比奈真由美, 清水栄司: 学生と教員の 1 対 1 メンタリングによる学生支援の成果と課題ー4 段階の支援プロセスに注目してー, 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.), 2019.
19. 神田真人, 伊藤彰一, 朝比奈真由美, 小林欣夫, 生坂政臣: 学生患者コミュニケーションのテキストマイニングによる特徴分析, 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.), 2019.
20. 松本暢平, 朝比奈真由美, 伊藤彰一, 生坂政臣: 千葉大学医学部附属病院におけるアテンディング(教育専任医師)の教育業績に関する客観評価の妥当性, 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.), 2019.
21. Izumi Usui, Tomoko Majima, Yoshihisa Tateishi, Ikuko Sakai, Mayumi Asahina, Masayuki Ishikawa: Research on the evaluation of secondary cardiopulmonary resuscitation training aiming at improvement of interprofessional collaborative competency. Conference for Education in Medicine and Simulation CEMS 2019, Taipei Medical University, Taipei (Taiwan), 2019.
22. Mayumi Asahina, Narumi Ide, Izumi Usui, Kana Kurokuchi, Ikuko Sakai, Shoichi Ito: A qualitative study on the impact of IPE in clinical clerkships on clinical educators. amee2019(An International Association for Medical Education), Austria Center Vienna, Vienna (Austria), 2019.
23. Yohei Matsumoto, Satoshi Okada, Shoichi Ito, Kazuyo Yamauchi, Misaki Onodera, Mayumi Asahina: Involvement Helps Medical Students Feel Communication Skills, Attitudes, and Ethics: Multivariable Analyses at Chiba University, Japan. amee2019(An International Association for Medical Education), Austria Center Vienna, Vienna (Austria), 2019.
24. Hajime Kasai, Shoichi Ito, Hiroshi Tajima, Mayumi Asahina, Ikuko Sakai, Koichiro Tatsumi: The positive effect of student-oriented hospital ward rounds employing role-play and peer review on the clinical performance and professionalism of clerkship students. amee2019(An International Association for Medical Education), Austria Center Vienna, Vienna (Austria), 2019.
25. 関口陽太, 中口俊哉, 村竹虎和, 三浦慶一郎, 川田奈緒子, 吉村裕一郎, 伊藤彰一, 朝比奈真由美, 田辺政裕: 拡張現実型聴診訓練システムにおけるカメラ体型聴診器デバイスの開発, 第 19 回日本 VR 医学会学術大会
26. 酒井郁子: 看護師部会 リハビリテーションにおける尊厳あるケア. 第 9 回千葉県回復期リハビリテーション連携の会全県大会. 16, 2019.
27. 佐藤多美子, 酒井郁子: 総合リハビリテーションの展開を支える病棟スタッフの専門職連携実践能力の再獲得, 第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 28, 2019.
28. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 酒井郁子: 認知症にかかわる専門職の多職種共同研修プログラムの短期的効果の検証 第 2 報. 第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 56, 2019.
29. 池永康則, 酒井郁子, 高柳友子, 櫻井友衣: 頸髄損傷者とその家族との関係に介助犬が及ぼした変化: ライフストーリーインタビュー研究. 日本補助犬科学研究(日本身体障害者補助犬学会 第 12 回学術大会) 13(1), 77, 2019.
30. 長谷川直, 瀬尾智美, 須藤知子, 横田久美, 村中晃, 宮崎尚, 酒井郁子: 千葉大学医学部附属病院におけるせん妄予防のストラテジー 日本語版 4A 'STest (4AT-J) を用いて. 第 115 回日本精神神経学会学術集会, 精神神経学雑誌 2019 特別号, S621, 2019.
31. Ikuko Sakai, Shiro Isono, Takahiro Ishikawa, Ayumi Amemiya, Ryou Komatsu, Syoko Sakuraba: Development of a Bed sensor system for detecting changes in physical condition of residents of long-term care facilities. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. 127.Taipei (Taiwan). 2019.

32. 飯田直子, 池畑久美子, 酒井郁子: 総合リハビリテーション病院において多職種で取り組む退院支援のしくみづくり. 日本リハビリテーション看護学会第 31 回学術大会. 73, 2019.
33. 深堀浩樹, 友滝愛, 酒井郁子: 臨床看護師の「科学的根拠に基づく実践」に関連する属性要因: 横断研究. 第 39 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 58, 2019.
34. 池崎澄江, 酒井郁子, 谷本真理子, 黒河内仙奈: 特別養護老人ホームにおける「看取り介護指針・説明支援ツール」に基づく看取り介護の実施状況. 第 39 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 100, 2019.
35. Ai Tomotaki, Hiroki Fukahori, Ikuko Sakai, Kana Kurokochi: The development and validation of Evidence-Based Practice Questionnaire: Japanese version. 第 39 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 101, 2019.
36. Mami Nemawari, Ikuko Sakai, David Casenove: Effect of Nurse-Led Interventions for Stroke Survivors: A Scoping Review School of Nursing, Chiba University, Japan. 9th Hong Kong International Nursing Forum Program book, 75, 2019.
37. Tae Yamaguchi. Ikuko Sakai: Educational support by nurse managers for senior clinical nurses who transferred from acute to rehabilitation wards. 23rd East Asian Forum Of Nursing Scholars, 76, 2020, Chiang Mai (Thailand).
38. Tae Yamaguchi. Ikuko Sakai: Relationship between the factors of unlearning and interprofessional collaborative competency of senior clinical nurses. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Abstracts Book, 382, 2020.
39. 岡本明美, 宮津珠恵, 田中優子, 小林成光, 眞嶋朋子: がん診療連携拠点病院のジェネリストナースによる患者への就労支援の現状 病棟・外来・化学療法室・看護相談室における調査. 日本がん看護学会誌, 33(Suppl.), 225, 2019
40. 荒井房子, 眞嶋朋子: 外来治療を受ける乳がん患者の子育てと治療継続中の体験. 日本がん看護学会誌, 33(Suppl.), 230, 2019
41. 高須, 清子, 眞嶋朋子: 化学療法の副作用により脱水となり緊急入院となった大腸癌患者のセルフケアに関する看護支援. 日本がん看護学会誌, 33(Suppl.), 236, 2019.
42. 佐野元洋, 岡田将, 眞嶋朋子, 小林欣夫: 訪問看護師を対象とした在宅心不全看護セミナーの評価と課題. 日本循環器学会学術集会抄録集, 82 回, CP07-02, 2019.
43. 細矢美紀, 眞嶋朋子: 終末期がん患者の病棟看護師による退院支援質評価指標の開発(その 1) 指標原案の作成と洗練. 日本がん看護学会誌, 33(Suppl.), 258, 2019
44. 細矢美紀, 眞嶋朋子: 終末期がん患者の病棟看護師による退院支援質評価指標の開発(その 2) 指標の適用可能性の検討. 日本がん看護学会誌, 33(Suppl.), 258, 2019
45. 大塚知子, 舘祥平, 野崎章子, 石井伊都子, 滝口裕一, 眞嶋朋子: がん性疼痛管理における医師・看護師・薬剤師の潜在的障壁に関する意識調査. Palliative Care Research, 14, S307, 2019.
46. 池崎澄江, 辻村真由子, 飯田貴映子: 高齢者施設で働く看護職に求められるエンドオブライフケアコンピテンシー デルファイ報調査第 1 報 研究職と実践職との相違. 日本老年看護学会第 24 回学術集会抄録集, 188, 2019.
47. 飯田貴映子, 池崎澄江, 辻村真由子: 高齢者施設で働く看護職に求められるエンドオブライフケアコンピテンシー デルファイ報調査第 2 報 現任教育における難易度の検討. 日本老年看護学会第 24 回学術集会抄録集, 189, 2019.
48. 路璐, 北池正, 池崎澄江: 病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの開発, 日本看護研究学会第 45 回学術集会講演集, 42 (3), 425, 2019.
49. Kieko Iida, Sumie Ikezaki, Mayuko Tsujimura, Sunghhee H Tak, Woonseon Jung, Siriphan Sasat, and Wasinee Wisarith: Developing an end-of-life care competency framework for long-term care nurses in Asia: A comparative study in Japan, South Korea, and Thailand. IAGG(The International Association of Gerontology and Geriatrics) 11th Asia/Oceania Regional Congress(Taipei, Taiwan). 2019.

50. 池崎澄江, 石橋智昭, 高野龍昭: 特別養護老人ホームにおける看取りのための医療体制. 日本医療・病院管理学会誌 (日本医療・病院管理学会学術総会演題抄録集), 56 (Suppl.) 199, 2019.
51. 千葉宏毅, 池崎澄江, 伊藤道哉, 岡田美保子, 折井孝男, 加藤多津子, 根東義明, 相馬孝博, 前田光哉, 山下哲郎, 山本光昭, 伊藤弘人: 日本医療・病院管理学会重点用語事典の利用状況と改定の方角性学会員対象アンケート調査より. 日本医療・病院管理学会誌, 56 (Suppl.), 237, 2019.
52. 路璐, 北池正, 池崎澄江: 病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの効果の検証. 第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 113, 2019.
53. 其田貴美枝, 関根祐子, 森野正倫重, 山田 緑, 杉山 篤: 在宅医療におけるスマートフォン対応家庭血圧測定器の運用に関する考察. 第24回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 2019.
54. 滝澤楓, 石川雅之, 大久保正人, 横山威一郎, 中村貴子, 鈴木貴明, 関根祐子, 石井伊都子: 散薬調剤ロボット導入により削減可能な調剤時間のシミュレーション. 日本病院薬剤師会関東ブロック第49回学術大会, 2019.

[シンポジウム・招聘講演]

55. 朝比奈真由美: プロフェッショナルリズム教育の考え方と具体的な教育方略. 第51回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.), 2019.
56. Mayumi Asahina: Interprofessional Education(IPE). 9th Inje-Chiba Joint Seminar, Busan, Korea, 2019.
57. 酒井郁子: ランチョンセミナー 長期ケア施設における生活機能の維持拡大および体調管理にむけた生体情報の活用. 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 119, 2019.6月.
58. 酒井郁子: リハビリテーションにおける尊厳あるケア. 第9回千葉県回復期リハビリテーション連携の会 全国大会, 16, 2019.
59. 酒井郁子: ワークショップ IPE のための教員間連携ーなぜ学生にはできて教員には難しいのかー「IPE 導入の具体的手順と考え方ー千葉大学 IPERC の活動ー». 第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 56, 2019.
60. 酒井郁子: 特別講演 看護職に必要な専門職連携教育 医療者としてお互いにお互いからお互いについて学ぶために. 京都府看護学会集録, 9, 2020.

[報告書]

61. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 馬場由美子編: 文部科学省国立大学改革強化促進補助金 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 令和元年度事業報告書, 2020.

[単行書]

62. 酒井郁子: 連載 意外に知られていない高齢者の事故 (最終回) 高齢者の事故予防はケアの質の向上によって実現する. 看護技術, メヂカルフレンド社, 60-63, 2019.
63. 酒井郁子: I-5 高齢者ケアのエビデンスから見た回復期リハ病棟でのケア改善の必要性. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装. 医歯薬出版株式会社, 31-36, 2019.
64. 酒井郁子: II-1 回復期リハビリテーション看護の特徴. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 37-42, 2019.
65. 酒井郁子: II-2 回復期リハビリテーション看護に必要な実践能力. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 43-48, 2019.
66. 酒井郁子: III-4 専門職チームの構築と運営. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 84-93, 2019.
67. 酒井郁子: IV-3 EBP 実装プロジェクトの推進. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 121-132, 2019.
68. 酒井郁子: 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A. 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかり, 山川みやえ (編) 日本看護協会出版会. 2019.

69. 酒井郁子：Q17 認知症の人の退院支援において一般病棟のナースは何をしますか？ 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A. 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかり, 山川みやえ (編) 日本看護協会出版会. 40-41. 2019.
70. 酒井郁子：Q32 認知症の人の疾患の治療を効果的に行うためにナースが行うことは何ですか？ 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A. 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかり, 山川みやえ (編) 日本看護協会出版会. 76-77. 2019.
71. Tomoko MAJIMA 他：Palliative Nursing in Japan: Practice and Research, -Palliative care New development medical research, NOVA, 2019
72. 井出成美：地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり. 宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子編, 最新公衆衛生看護学総論, 第3版(2020年版), 日本看護協会出版会, 305-309, 2020.
73. 井出成美：地域包括ケア. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵編, NICE 成人看護学, 成人看護学概論社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える, 改訂第3版, 南江堂, 82-83, 2019.
74. 井出成美：認知症対策. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵編, NICE 成人看護学, 成人看護学概論社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える, 改訂第3版, 南江堂, 87-90, 2019.
75. 井出成美：エンパワメント. 正木治恵, 真田弘美編, NICE 老年看護学概論, 改訂第3版, 南江堂, 156-161, 2020.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

76. 酒井郁子：Q2. 治療方針や退院時期をめぐる医師と看護師が対立している場合、どうしたらよろしいでしょうか？ 総合診療 教えて！医師のためのビジネス・スキル, 医学書院, 1186-1188, 2019
77. 長谷川直, 瀬尾智美, 横田久美, 村中晃, 須藤知子, 平野成樹, 山内厚史, 宮崎尚, 酒井郁子：千葉大学医学部附属病院におけるせん妄予防のストラテジー. 千葉医学雑誌, 95 (4), 137, 2019.
78. 酒井郁子, 池西静江, 渡部美保子：FOCUS (【座談会】『専門職連携教育ガイドライン』活用に向けて. 看護教育, 61 (1), 52-60, 2020.
79. 朝比奈真由美：白衣式および白衣式実施プロジェクトの紹介 (千葉大学の例) 医学教育, 50(2), 177-180, 2019.

〔受賞 (国内・国外)〕

80. Izumi Usui, Tomoko Majima, Yoshihisa Tateishi, Ikuko Sakai, Mayumi Asahina, Masayuki Ishikawa：Research on the evaluation of secondary cardiopulmonary resuscitation training aiming at improvement of interprofessional collaborative competency. Conference for Education in Medicine and Simulation CEMS 2019, Taipei Medical University, Taipei (Taiwan), 2019. Award for Academic Excellence (E-poster) 優等 (3rd Prize) 受賞 (国外)



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまった亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

文部科学省 国立大学改革強化促進補助金
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
令和元年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究科専門職連携教育研究センター
編集者：酒井郁子、井出成美、臼井いづみ、馬場由美子、富永嘉子、長谷川容佳
発行日：令和2年（2020）年3月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター
E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めてくださいますよう、お願いいたします。